第26回

Prudential
EMERGING VISIONARIES

ボランティア・スピリット・アワード

活動報告書

主催：プルデンシャル生命保険株式会社
　　ジブラルタ生命保険株式会社
　　プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社
　　日本教育新聞社
後援：文部科学省
　　日本赤十字社

PRUDENTIAL EMERGING VISIONARIES
ボランティア・スピリット・アワード 事務局
TEL：03-5501-5364　www.vspirit.jp

2023.4

Prudential

EMERGING VISIONARIES

CONTENTS

ごあいさつ — P.2

Prudential Emerging Visionaries 第26回 ボランティア・スピリット・アワード　実施報告 — P.3

第26回ボランティア・スピリット・アワード受賞者紹介

- 文部科学大臣賞 — P.4
- 米国ボランティア親善大使 — P.5
- 全国賞 — P.6
- ブロック賞 — P.8
- コミュニティ賞 — P.12

審査員からのメッセージ — P.26

先輩受賞者のスピーチ紹介 — P.28

アメリカの受賞者紹介 — P.30

第26回ボランティア・スピリット・アワード応募状況 — P.32

第26回ボランティア・スピリット・アワード応募校一覧 — P.33

第27回ボランティア・スピリット・アワード募集概要 — P.36

ごあいさつ

この度はPrudential Emerging Visionaries（プルデンシャル・エマージング・ビジョナリーズ）第26回ボランティア・スピリット・アワード（以下、ボランティア・スピリット・アワード）に全国から多くのご応募をいただき、誠にありがとうございました。皆さまのボランティア・スピリットに心から敬意を表します。

ボランティア・スピリット・アワードは、米国プルデンシャル・ファイナンシャルが1995年から実施している国際的なプログラムで、日本では1997年にスタートしました。以来、多くの方々のご理解とご支援をいただき、日本では昨年26年目を迎えました。主催者を代表して、ここに改めて感謝申し上げます。

本プログラムは、「未来を描くチカラ」をキャッチフレーズとして、“誰かのために何かを変える”ことを目指し自ら行動を起こしている中学生・高校生を応援することを目的としています。

社会課題に気づき、それを自身の課題と捉え、ボランティア活動を通じて挑戦と克服を繰り返しながら成長する中学生・高校生を称え、その努力と貢献に対して感謝を贈り、受賞者同士が出会い交流する場を提供し、彼らの活動を社会に向けて発信していきたいと私たちは考えております。

ボランティア・スピリット・アワードにおける受賞はゴールではありません。むしろ、ここからが新しいスタートです。ボランティア・スピリット・アワードを一つのきっかけとして、ボランティアの素晴らしさを次世代に伝えるリーダーになっていただきたいと思います。

最後に、皆さまのボランティア・スピリットと行動力に、心から「ありがとう」の言葉をお贈りします。

日本におけるプルデンシャル・グループの代表として

濱田 元房

プルデンシャル・ホールディング・オブ・ジャパン株式会社
代表取締役会長 兼 最高経営責任者

We are proud to celebrate these 25 young people from across the country for their inspiring commitment to improving the lives of others.

Prudential Emerging Visionaries, a collaboration between Prudential Financial and Ashoka with advisory support from the Financial Health Network, is an evolution of Prudential's Spirit of Community Awards – a program, which over 26 years, honored more than 150,000 young volunteers across the United States.

We honor this inaugural class of Emerging Visionaries for projects ranging from addressing needs created by the COVID-19 pandemic, combating economic inequality, advocating for inclusion, and closing the digital divide.

These young changemakers were selected based on our criteria: their solution is innovative; it can create meaningful impact in the future and can scale to a wider community; it demonstrates a deep understanding of the issue; and it inspires the visionary to lead or take action and motivates others to do the same.

Outside the United States, Spirit of Community continues to operate in countries where Prudential has a significant business presence including Brazil, China, India and Japan.

Prudential Emerging Visionariesボランティア・スピリット・アワードは、これまで26年以上にわたり、全米で150,000人以上の若いボランティアを表彰してきたPrudential Spirit of Communityを進化させたものです。

この度、本プログラムにおいて、人々の生活をより幸せにするという、非常に示唆に満ちた取り組みに対して、全国から集まった若者を称えることを誇りに思います。

彼らの活動は、コロナ禍で生じた社会的課題の解決、経済的不平等との闘い、ダイバーシティ&インクルージョンの観点での取り組み、情報格差の解消など、多岐にわたりました。

私たちは、彼らが提示する解決策は非常に革新的であるか、将来的に有意義な影響をもたらすか、より広くコミュニティに拡げていくことができるか、という基準に基づき選びました。また、社会的課題に気づき、リーダーシップを発揮し、アクションを起こし、他の人にも行動を起こすように促しかつ動機付けていることも重視しています。

Prudential Emerging Visionariesボランティア・スピリット・アワードは、米国以外、ブラジル、中国、インド、日本など、プルデンシャルが事業展開を行っている国々でも、若者たちを称えています。

チャールズ F. ラウリー

プルデンシャル・ファイナンシャル・インク
会長 兼 最高経営責任者

Prudential Emerging Visionaries 第26回 ボランティア・スピリット・アワード 実施報告

Prudential Emerging Visionaries ボランティア・スピリット・アワードとは?

「称える」「交流する」「発信する」という三本柱で皆さんのボランティア・スピリットを応援しています。

称える

表彰式に受賞者をご招待し、ボランティアに取り組む皆さんに「ありがとう」という言葉を贈ります。

交流する

表彰式後の交流会は“出会いの場”。多くの仲間と出会い、今後の活動に役立てることができます。

発信する

皆さんの活動内容やボランティアに関する情報を、ホームページで広く社会に発信しています。

ボランティアスピリットアワード 検索

これらの画像は過去の表彰式等の様子です

応募資格

- ボランティア活動に取り組んでいる中学生・高校生
- 過去の応募・受賞歴に関係なく、何度でも応募可能
- 個人の活動、グループでの活動、どちらも対象

審査方法

応募内容を総合的に審査しました。

ポイント ◆自主性 ◆創造性 ◆気づき・チャレンジ ◆社会貢献度・影響度 ◆学び・成長 ◆困難の克服 等

スケジュール

こんなことでもボランティアかも?
- 地域のお祭りで歌を披露!
- 地元の子どもたちにサッカーを教えた
- 学校で栽培した野菜を高齢者施設に寄付した

2022年 6月 6/1 応募開始 → ホームページより応募受付

7月

8月 8/31 応募締切

10月 10月6日に受賞者発表 → 審査 ブロック賞 30組 コミュニティ賞 150組

11月 11/13 受賞者活動発表会・交流会 ※オンライン開催

12月 12/18 全国表彰式開催 ※ブロック賞受賞者をご招待 ※オンライン開催

2023年 4月 全米表彰式開催 ※米国ボランティア親善大使2名に参加いただきます

各賞について

賞	受賞数
ブロック賞 活動支援金5万円 表彰状	30組
コミュニティ賞 活動支援金2万円 表彰状	150組

ブロック賞受賞者を全国表彰式で表彰

賞	中学生部門	高校生部門
文部科学大臣賞 活動支援金10万円、表彰状、クリスタルトロフィー	1組	1組
全国賞 活動支援金10万円、表彰状、クリスタルトロフィー	8組	

賞	ブロック賞受賞者から
米国ボランティア親善大使	2名

第27回応募方法は36ページをご覧ください。

文部科学大臣賞 紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※活動内容は応募時点のものです。
※順不同

［文部科学大臣賞（中学生部門）］

首都圏ブロック　東京都　**サレジアン国際学園中学校高等学校　松尾（まつお） 栞奈（かんな） さん**

小さい頃から路上で生活しているホームレスの方を見てきて、母と何かできる事はないかと考え始め、お弁当活動ならできると思って2年前から自分で作ったお弁当を生活に困っている方やホームレスの方に配る活動をしている。ホームレスの方にお弁当を持って行った際にはなるべく話をして、少しでも多くコミュニケーションを取るようにしている。声をかけ話をすることで体調確認にも繋がるからだ。また小学3年生の時から保護犬、保護猫のお世話や譲渡会などのお手伝いもしている。自分ができることをこれからも考えていこうと思っている。

［文部科学大臣賞（高校生部門）］

北海道・東北ブロック　宮城県　**宮城県農業高等学校　農業経営者クラブ**

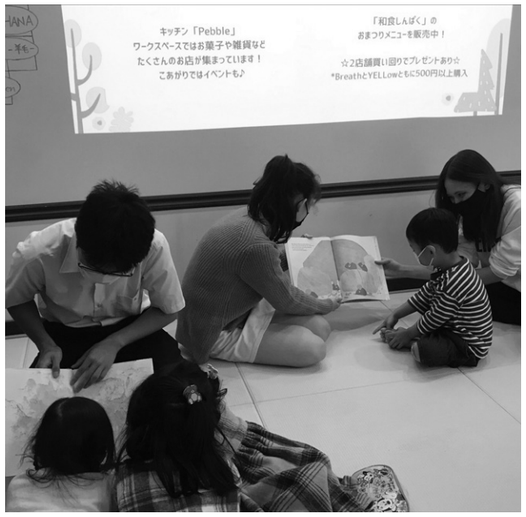
地元の砂浜には5㎜程のプラスチック片が大量に散乱していた。これは稲作で使われるプラスチック肥料の残骸で、これが一因となり海洋汚染を引き起こしていたのだ。そこで自分たちはウレアホルム肥料を使うことで、稲を育てる際にプラスチック肥料を使わない栽培法の構築に成功。これを商品化することで通常よりも安くお米を作ることができる。この実績が認められ、国会資料として提出され、プラスチック肥料を使わないことがJAで決定。プラスチック肥料をゼロにする活動に繋がった。現在は緑肥を地域の農業組織と連携して広めるボランティアも始めた。

米国ボランティア親善大使 紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※活動内容は応募時点のものです。
※順不同

［米国ボランティア親善大使］

首都圏ブロック　東京都　**Read by Anna リードbyアナ　菊地（きくち） 真莉佳（まりか） さん**



地域の英語教育の平等性を目指し、三鷹武蔵野地区を中心に、地域の子どもたちと季節のイベント等に合わせて英語の絵本を一緒に読むイベントを開催している。英語がはじめての子どもでも参加しやすいように、フォニックス（発音とアルファベットの関係性やルールを学ぶ学習法）を取り入れて、月に1回程度、クリスマスのイベントに合わせては、12月に3回開催している。現在は日本ではじめての“子どもによる子どものための英語創作絵本コンテスト”を開催するために、出版社やメディアのサポートを得られるように活動している。

［米国ボランティア親善大使］

関西ブロック　兵庫県　**学生団体Get CHANCE　濱田（はまだ） 颯太（そうた） さん**

主な活動の一つ目は「オンライン塾GET」の運営だ。これは経済的な理由で塾に通えない学生、学ぶ意欲のある学生を対象にした無料塾で、授業内容はボランティアの先生方と私たちで作成している。二つ目は「人生の授業CHANCE」という講演会の運営。自分たちは将来の自分のあり方を考える時間が何よりも大切だと考えており、各部門の専門家や職業人による講演会を無料開催している。意識していることは、生徒が受け身になって授業を受けるのではなく、より積極的に授業に参加しやすくするために、生徒と先生の対話を重視した授業だ。

全国賞（中学生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※活動内容は応募時点のものです。
※順不同

関西ブロック　京都府　ジュニアリーダーズクラブ for Social Action

イベントやゲームなど一から何かを創り出すことが好きだったので、身近な問題の解決に貢献できるようなアイデアを出し合って実現する活動を行っている。昨年は目の見えない人とも一緒に楽しめる目隠しパズルを作って、地域の人が遊びながら交流してもらえる会を開催した。また“互いの違いを理解し合える遊び”をテーマに、カードゲームを制作。現在は10月29日に実施する清掃活動「ハロウィンチャレンジ～ゴミ拾い名人は誰だ!?」の準備を進めている。今後はイベントなどの時に受付や案内役を率先して行って、自分に足りない能力を身につけたい。

中国・四国ブロック　愛媛県　宇和島市立城南中学校　生徒会

福島県南相馬市のマーチングバンド「Seeds+」を宇和島に招待するコンサートの運営を行うことになった。近隣の中学校とのリモート会議を通して、イベントの内容を企画し、地元の夏祭りのダンス「ガイヤ」を披露することなどを提案し、当日は自分たちで進行などの役割を担ってコンサートを盛り上げることができた。2日目には宇和島市の名所を案内するおもてなしツアーを実施。これは「えひめ南予きずな博」のプレイベントでもあり、本番に向けて大いに勢いづけることができた。将来的には「ボランティアのまち宇和島」と言われるようになりたい。

北関東・信越ブロック　茨城県　茗溪学園中学校高等学校　JRC同好会

畑を通して地域や世界と「繋がる」活動を行っている。学校の食堂から出た野菜くずを堆肥化し、その堆肥を活用して学校の畑で農作物や花を育てている。これまでに、学校の畑で育てた野菜をウクライナからの避難民の方々や地域の子ども食堂に寄付した。海外の学校と学校菜園を通して交流したり国際的な会議に参加したりし、「Think Globally, Act Locally」を心がけて活動している。今後は畑活動を持続可能なものとし、地域社会との繋がりを強化しながら、国際交流や研究者との学問的交流の機会にも積極的に参加していきたい。

東海・北陸ブロック　愛知県　名古屋市立新郊中学校　宮原（みやはら） りあ さん

ペットを埋葬したお寺にお供えされたペットフードを分けてもらい、それを名古屋市の動物愛護センターへ持って行き、行き場を失った犬や猫たちのおやつや躾のフードとして命をつなぐ活動を行っている。昨年からその枠をさらに広げ、名古屋市で殺処分寸前の猫たちをシェルターに引き取り、さらに家族を探すボランティア活動をされている方々のところに届ける取り組みも行った。今後は日本国内にとどまらず、世界規模で動物に限らず命を大切にしてほしいというメッセージを発信したい。この活動を通じて得られる大きな可能性を信じています。

全国賞（高校生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※活動内容は応募時点のものです。
※順不同

北海道・東北ブロック　青森県　青森県立五所川原農林高等学校　6次産業研究室

自分たちは津軽地域の子どもの貧困問題を解決するため、青森リンゴをフル活用した農業高校フードバンクを運営している。主な活動は3つあり、①授業で必ず生まれる規格外リンゴを子ども食堂運営団体に寄贈、②子ども食堂とコラボした子ども向け農業体験の実施、③農業の6次産業化（生産×加工×販売）を実践して商品を開発・販売し、売上の一部で地域農家から規格外野菜を購入して子ども食堂に寄贈。今後チャレンジしたいことは、青森リンゴを活用した農業の6次産業化による第2弾商品の開発だ。そして農業高校フードバンクの基盤を作っていきたい。

首都圏ブロック　埼玉県　Your English Classmate

2022年4月より、毎週金曜日の21時30分から30分間、1対1のオンライン英会話を無料で提供している。講師は英検1級保持者の高校生に限定し、現在は12人で活動している。全年齢対象だが主に小学生から高校生の申し込みが多く、これまでに約120回の授業を行った。内容は英検の二次試験対策、TOEFL対策、日常英会話など生徒の要望に応じている。夏にはゲームでの交流やプレゼン練習を目的とした対面イベントも開催した。8月に開いた対面イベントでは再度開催してほしいとの声が多かったため、より大規模なイベントの開催を準備している。

東海・北陸ブロック　愛知県　トライ式高等学院千種キャンパス　課題研究講座ボランティアコース

1人でも多くの子どもが温かい家庭で生活できるよう、里親を増やす取り組みを行っている。主な活動は、里親家庭の日常写真を展示する写真展の開催や、普及啓発イベントの企画・運営だ。今年度は新たに不妊治療中の妻が里親になり、子どもを迎えるまでを夫目線で描いた一人称動画の制作に挑戦。複数の里親に当時のいきさつや心境を取材し、それをもとに構成を考え、後日構成にそって撮影を行った。また、写真展に合わせて児童養護施設の子どもたちの夢を展示し、子どもたちの夢を応援してくれる新規里親を募る活動も行っている。

中国・四国ブロック　岡山県　山陽学園高等学校　地歴部

瀬戸内海の海洋ごみ問題の解決に向けた取り組みを行っている。具体的には目視可能な街中ごみを市民が容易に調査・回収可能なスマホ対応アプリの開発だ。 QRコードから無料でダウンロードできるアプリを利用し、市民が日常生活を送るなかで見かけたごみの位置情報や写真などを送信することで、まずは市民の美化貢献意識の醸成がなされる。また送信データからごみの集積場所の地図化と清掃の効率化が可能になる。このように市民自らの手で海洋ごみ問題を解決する「シビックテック」の考えを活用した、市民協働に取り組んでいる。

ブロック賞（中学生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※活動内容は応募時点のものです。
※順不同

北海道・東北ブロック

秋田県　大仙市立大曲中学校　入江（いりえ） 帆美（ほのみ） さん

大仙市の伝統的な民謡「ドンパン節」の普及を行う「ドンパン娘」に所属し、イベントなどで踊りを披露している。個人の活動としては、リンゴ農家や子ども食堂の手伝いや保育園でのボランティア活動、中学校の「生徒会執行部」という地域貢献活動を行う部活に所属し、高齢者のゴミ捨て支援や地域を活性化する活動（企業発展アイデアや商品開発など）も行っている。今後は大人が主導する子ども食堂から、子どもたちが自分たちで育てた野菜などを使って自分たちで調理し、自分たちで食べる、そんな子ども食堂を運営してみたいと考えている。

北関東・信越ブロック

栃木県　学生ボランティア団体　Rainbow

2021年の11月に、同じ志を持った市町村の違う中学生5人でボランティア団体を立ち上げた。地域の障がい者施設のお手伝い・ゴミ拾い・SDGsのワークショップ・地域食堂・食品ロス問題への取り組み・チャリティーバザーなどさまざまな活動を行っている。「本当に必要な物」を児童施設にプレゼントするためのチャリティーバザーや、地域の人のためのボランティアなど、活動の幅を広げるために行動している。目標はNPOを立ち上げることで、そのための募金活動も行っている。また、食品ロス問題の活動を通してたくさんの施設との繋がりを築いていきたい。

東海・北陸ブロック

富山県　富山市立八尾中学校

自分たちが行った活動は主に2つ。1つ目はYCP（八尾クリーンプロジェクト）で、八尾町のゴミ拾いを行う活動だ。今までに2回行っており、1回目は学校周辺、2回目は八尾の伝統行事である「おわら風の盆」の開催地となる旧町で実施した。2つ目はYCPを広める活動で、「ピリカ」というゴミ拾いの様子を投稿するSNSアプリや学校のホームページを活用して活動を拡散した。今後は八尾町の魅力を再発見するフォトコンテストの実施、YCPの活動や八尾町の魅力を文化祭などで発表し、地域そして社会に影響を与えられる活動に取り組んでいきたい。

石川県　かほく市立高松中学校　ジュニアボランティアサークル絆

石川県で修理・クリーニングをした中古ランドセルを安価で販売し、売上げの一部を子ども食堂に寄付するRSnextの活動を新聞で知り、代表者の方から直接話を聞き、その思いに感銘を受け、この活動を一人でも多くの方に知ってもらい自分たちにできることで力になりたいと「絆ランドセルプロジェクト」を立ち上げた。全校生徒に使わなくなったランドセルの寄付を呼びかけた結果、48個のランドセルが集まり、RSnextへお渡しすることができた。このプロジェクトでできたご縁を大切に、来年度に第2弾が実施できるよう、この取組みを後輩に繋げたい。

岐阜県　大垣市・安八郡安八町組合立東安中学校　生徒会執行部

コロナ禍で地域とどのように関わっていくかをテーマに、「花を育成し愛と笑顔を地域の方々へ届けるプロジェクト」を発足させた。孤独・孤立問題が深刻化しており、解決する一つの方法として、町の社会福祉協議会に企画書を提出。生徒自ら育てた花を独居老人の方に直接手渡しをした。その際「生きる活力や希望をもらった」と涙を流してくださり、プロジェクトの重要さを改めて感じ、楽しみに待つ方々への関わりをこれからも続けていこうと思う。そしてこのコロナ禍で孤独・孤立しない・させないよう、これからも社会福祉協議会と対話し、考えていきたい。

東海・北陸ブロック

岐阜県　下呂市立下呂中学校　生徒会執行部

社会福祉協議会の方の講演で、コロナの影響で交流できない独居老人が約400人もいることは、下呂市が抱える深刻な問題であることを知った。そこで中学生の自分たちが地域を温かくする、地域に貢献することを目的とし、独居老人の方を直接訪問する活動を行っている。社会福祉協議会、民生委員の方々に協力いただきながら、生徒会が中心となって取り組んでいる。コロナ禍でも地域との絆を深め、学校行事や地域の防災訓練などへの参画も視野に活動を行っている。今回の活動を通し、相手と直接対面し、会話することの大切さを改めて感じた。

関西ブロック

滋賀県　大津市立葛川小・中学校　KCLプロジェクト／ザ・ガワタロウズ

母校のある安曇川流域の魅力をPRし、児童生徒数減少による廃校の危機から母校を守る活動を推進した。安曇川流域固有の水文化「シコブチ信仰」に光を当て、河童のガワタロウや流域植物をデザインしたカプセルトイを開発。支援者を募って得た資金をもとに製作したスタンプとストラップは、地元の道の駅にて完売することができた。現在はさらなる品質の向上と販路の拡大を願い、フィギュアメーカーをパートナーに迎え、カプセルトイの開発に継続して取り組んでいる。活動の今後の展開は、先輩が開設したウェブサイトで発信していく。

大阪府　大阪市立新巽中学校　生徒会

給食の残食をコンポスト（堆肥をつくる容器）に入れて肥料化し、その肥料でヘチマの栽培を行い、できたヘチマからヘチマたわしを作っている。学校や家で使用する合成スポンジをヘチマたわしに変え食品ロスとプラスチック削減につなげるための活動だ。また、エコキャップを回収して障がい者施設に送って雇用者の給与とその一部がワクチンとして寄付される活動にも参加している。さらにプルタブ回収を行い、その収入で障がい者施設に車いすを寄付する取り組みをしている。今後は地域全体で循環する資源の仕組みを作っていきたい。

中国・四国ブロック

高知県　香美市立大栃中学校　3年生地域貢献プロジェクト

高知県香美市物部町には、高齢者が多く若者が少ないという現状がある。そこで自分たちが育っているこの物部を盛り上げていきたいという思いから、この地で昔から受け継がれてきた「塩の道」に着目した。まずは「塩の道」を知ってもらうために、物部に伝わっていた話をもとにアニメを制作。そして宣伝のためのポスターを作成して掲出。さらに食で物部をPRするために、新「塩の道弁当」の開発を進めている。若者に人気のおかずなどを模索し、地域の方々と協力して共同開発をしている。物部町に新しくできる橋の開通式でお弁当を売る予定だ。

九州ブロック

鹿児島県　与論町立与論中学校　生徒会

2021年8月、太平洋上の福徳岡ノ場で噴火が起こった影響で、自分たちが住む与論町にも多くの軽石が漂着した。生徒全員で軽石拾いができないか、先生方とも協議を重ね、土曜授業の一環として全校生徒及び学校の先生、保護者、地域の方々も巻き込んで軽石拾いを実施。与論島で特に影響があった海岸を3箇所に分けて軽石拾いを行った。最終的に集めた軽石は1トンの袋およそ20袋になった。その後ボランティア意識が広がり、部活や個人で軽石を拾う生徒が増えた。今後は海洋ゴミが世界中の海から減少していくことを願っている。

ブロック賞（高校生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※活動内容は応募時点のものです。
※順不同

首都圏ブロック

千葉県　麗澤中学・高等学校　SDGs研究会「EARTH」

「SDGs研究会」という部活動を行っている。この部活動には中高生70名が所属し、10個の企画があるが、そのうちのひとつに東ティモール産のコーヒーを使用したフェアトレードコーヒーの活動がある。いちばんの特徴は、部活動でありながら学校からの資金援助は得ず、フェアトレードコーヒーの販売収益のみを活動資金として、持続可能な循環を生み出していることだ。今後はSDGs研究会が構築してきたビジネスモデルを日本全国の高校へ普及させ、誰もが「やってみたい」と思った活動を行える体制を作っていくことを目指していきたい。

東海・北陸ブロック

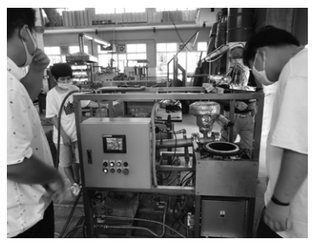
愛知県　中部大学春日丘高等学校　インターアクトクラブ　（代表:寺西（てらにし） 明（めい） さん）

「みんなのひみつきち」という無料塾のボランティアをしている。これは自分たち高校生がゼロから立ち上げた活動で、勉強の得意不得意や障害の有無にかかわらず、文字通り「みんな」を対象とした学習支援を行う活動だ。また、科学教室や料理教室を開催することで、勉強以外から得られる学びを提供したり、お寺での座禅体験や農家での田植え体験などの校外学習をすることで地域の方との交流にも取り組んでいる。今後は地元のお店と提携して、そのお店の売り上げの一部を無料塾の支援に充ててもらうシステムづくりにも取り組むつもりだ。

関西ブロック

大阪府　大阪府立堺工科高等学校　定時制の課程　コロナ禍において「社会を元気にするプロジェクト」

コロナ禍において、工科高校ならではの「ものづくり」を通じて「社会を元気にするプロジェクト」を立ち上げた。コロナの影響で地域の方々が疲弊しているので、地域の伝統工芸士の指導のもと、さまざまな「啓発キャンペーン」を企画して、自分たちが授業や部活動で作った「啓発グッズ」（地域の伝統産業品）の配布活動（感染者数が多いときは、手渡しではなく各人が持ち帰る）を行い、地域社会を元気にしている。これからも地場産業が盛り上がり、宿泊・飲食・物販・交通などあらゆる産業が元気になるような活動にチャレンジし続ける。



大阪府　大阪府立堺工科高等学校　定時制の課程　脱炭素!地球温暖化防止～防災・減災プロジェクト～

自然災害が多発している昨今、地球温暖化防止のために、私たちは「プラスチックゴミ」から「燃料油」を作る装置を造り、その「燃料油」を入れると電気ができる装置も造った。すなわち、地球温暖化の一因といわれている「海洋プラスチックゴミ」などから発電ができるという活動に取り組んでいる。さらに、海水や河川やプールの水、風呂の残り湯などを飲料水にできる浄水装置（コロナウイルスやセシウム・鉛・水銀なども除去可）の改良も行った。「美しい地球を次世代に」や「捨てればゴミ、活かせば資源」キャンペーンを行い、自分たちの活動の広報も行っている。

大阪府　四天王寺高等学校　般若心経

自分たちが大切だと考えたのは、海外の方々が、「能動的に」検索しなければ日本での自然災害の情報を得ることができない現状を改善し、「受動的に」自然災害の情報が得られる環境作りだ。そこで日本に入国された海外の方々に、日本の自然災害についての情報を提供するため、「大雨について」や「地震及び津波について」、「避難グッズについて」の3種類の英語のポスターを製作。関西近郊の航空会社や空港税関、入国管理局、区役所などに連絡を入れてポスター掲出をお願いした。今後は日本全国の空港に掲出範囲を拡大していきたい。

中国・四国ブロック

山口県　山口県立宇部商業高等学校　商業研究部　調査研究班

宇部市は彫刻の街だ。設置された野外彫刻は200点以上だが認知度はいまひとつ。そこで、夏休みの約1か月間、彫刻鑑賞とリアル謎解きゲームを融合したイベント「目覚めし彫刻達の謎」を参加無料で開催した。宇部市の彫刻を楽しみながら鑑賞でき、かつ、屋外で密になることなくコロナ禍でも安心と考えたからだ。宇部市と防府市の全小学校へチラシ約14,000枚を配布し、合計563人がイベントに参加。人気ゲーム機などの景品代金約5万円は、ときわ公園内で射的とスーパーボールすくいを運営した自分たちの活動の売り上げで捻出した。

九州ブロック

長崎県　長崎県立諫早農業高等学校　食品科学部

放置竹林の竹を有効活用する活動を、先輩方から受け継ぎながら取り組んで6年目になる。竹パウダー（粉末）をキノコの菌床栽培に活用するというものだ。昨年度から、オンラインを通して大学や学会、地域のイベント等で普及活動を行ってきた。この取り組みが日本農業新聞で掲載された関係で、全国の事業所や農園、農家、NPO法人から「事業化を連携して取り組みたい」との問い合わせが多数あり、現在全国の15道府県で試験栽培が開始され、自分たちの目標を達成しつつあるが、今後もこの活動を全国へ積極的に発信し続けていきたい。

熊本県　熊本学園大学付属高等学校　野田（のだ） 千尋（ちひろ） さん

動物保護団体「きづなの丘」に訪問取材させていただき、現在の保健所の様子や殺処分、動物虐待の現状を学んだ。主な活動は「きづなの丘」施設の清掃、動物たちの世話、熊本県の動物愛護団体が販売している保護犬に関わる商品の宣伝などだ。また動物譲渡会へ出店し、売上を全額保護団体へ寄付したり、地域の人気カフェに協力を依頼して募金箱を設置し、集まったお金を保護団体に寄付した。SNSにおける動物愛護促進の動画や写真を投稿する取り組みも行っている。熊本県イングリッシュスピーチコンテストでこの活動についてスピーチする。

コミュニティ賞（中学生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※活動内容は応募時点のものです。
※順不同

北海道・東北ブロック

北海道　札幌市立栄南中学校　ぶら部

以前から保護猫カフェで掃除などのボランティア体験を行ってきた関わりから、今年度はマグネットやピンバッジ、布製品などのオリジナルグッズを作成して販売会を行い、材料費を差し引いた売上金21,502円を保護猫カフェに寄付した。また、その他にも部員だけでなく先生や生徒などさまざまな方に声掛けを行い、皆で協力して校区内や海岸のゴミ拾いや書き損じはがきの収集などを定期的に行っている。

青森県　五所川原市立五所川原第三中学校

「530ボランティア活動」と称して、リサイクル品回収活動に取り組んでいる。全校生徒が学区の各家庭を回って、新聞紙、段ボール、雑誌・書籍、ペットボトル、カン（アルミ、スチール）などを回収している。今ではこの活動が地域社会でも認知され、多くの方々にご協力いただいている。回収した収益金でボックスティッシュを購入し、地域の幼稚園、保育園、障がい者施設、老人施設、公共機関などへ寄贈している。

宮城県　ポップカーン Jr.

小学生とともに子ども駄菓子屋「ねっぱっぺ」を運営して、若者たちの活動を応援する寄付活動と報告会を行っている。また新しいプロジェクトとして、「ねっぱっぺ」の開店時にリモートで交流したフィリピンのシャルガオ島の子どもたちが、コロナ禍で学校が休校中に台風で大きな被害を受けたことを知り、中学生や地域の人に呼びかけて文房具を送るプロジェクトを計画中で、そのための活動資金を得る街頭募金にも取り組んでいる。

宮城県　気仙沼市立松岩中学校　佐藤（さとう） 里桜（りお） さん

海岸でのゴミ拾いや流木拾いを始めて3年になる。集めたゴミは分別してリサイクルするが、流木については燃えるゴミの量を減らすために何かに活用できないかと考え、薪ストーブの燃料、キャンプでの調理や焚火の燃料、避難所の非常用の炊き出し燃料などに利用してもらっている。また冬は地域の雪かきにも取り組んでおり、学校までの通学路を1時間ほど実施している。今年からは日頃生活に利用している道路や公園のゴミ拾いも始めた。

北関東・信越ブロック

群馬県　伊勢崎市立第三中学校　地域奉仕団

学区内にある介護施設に、プレゼントを作ってお渡しする活動をしている。 また、施設内で入居者の方々と一緒に活動をすることもあり、6月の訪問では一緒に七夕飾りを作った。 他にも幼稚園への訪問なども行った。卒業までの残り一年、今まで以上に真摯に活動に取り組み、ボランティアを通して地域のことをもっと知るとともに、自分も社会の一員という自覚を持ち、将来に生かしたいと考えている。

栃木県　宇都宮市立宮の原中学校　生徒会

「できることから始めよう」をモットーに、学校全体でボランティア活動に取り組んでいる。これまでの主な活動は、地域の天然記念物である「中鶴田の大フジ」の保護・清掃活動、企業が主催する子ども服のリサイクルプロジェクトへの参加、ペットボトルキャップ等の資源の回収、地域でのあいさつ運動の実施などがある。自分たち一人一人が社会の一員であるという自覚を持って、今後もこの活動に取り組んでいきたいと考えている。

栃木県　栃木市立皆川中学校　栗原（くりはら） 杏奈（あんな） さん

2022年7月に生徒会長として、また実行委員長として「皆川わっしょい祭り」を企画・開催した。自分たち皆川中学校と皆川城東小学校との合同での開催だ。ヨーヨー釣り・金魚すくい・輪投げ・射的・ガチャガチャ・くじ・スーパーボールすくいなどを用意して、中学生が交代で店番をして、小学生に楽しんでもらえるように企画して取り組んだ。また、近くの老人福祉施設の方々にもお声がけをして、地域交流にも力を入れて開催した。

新潟県　十日町市立吉田中学校

「SDGs達成に向けた社会貢献」、「過疎化が進む地域の活性化」、「SDGs12番・3R達成」を目標に、地域の方々と連携して年4回フリーマーケットを行っている。出店料と募金で集まったお金はケニアのNGOへ海外寄付している。フリーマーケットを行うことで地域全体にSDGsに対する意識が高まり、地域活性や社会貢献に繋がっていると同時に、お金について学ぶ機会にもなっている。

茨城県　八千代町立八千代第一中学校　生徒会

昨年度からSDGsを軸に、生徒会として何ができるかを考えて活動している。そしてコスモスの種を付けた風船をみんなで一斉に空へ向けて飛ばすバルーンリリースでの緑化活動を実施して、地球の緑化に貢献できるということを全校生徒で共有した。また地域とのつながりを感じられるあいさつ運動、そして今年度はウクライナへの支援募金を行った。今後も1人1人が目の前の相手を、そして世界中の人々を思いやれるような活動をしていきたい。

首都圏ブロック

埼玉県　さいたま市立植竹中学校　ユース・ボランティア・サービス部

不要紙を利用したサステナブルバッグの作成、地域の方々との交流、植物を建物の外側に生育させることで建物の温度上昇抑制を図るグリーンカーテンなどの活動を行っている。今年度から自分たちで話し合い、地域の清掃活動への取り組みも新たに始めた。サステナブルバッグは地域の方々の意見を取り入れてデザインの改良型を作成した。世界の子供たちとの交流作品展では、SDGsの観点からテーマごとに作品展示をした。

東京都　世田谷区立緑丘中学校　みどりのボランティア部

学校の校庭に大きな欅があり、秋になると落ち葉が溜まるので落ち葉掃きボランティアを行った。また5月下旬に体育大会があり、その時期には校庭にたくさんの草が生えて邪魔になるので、草とりボランティアを実施。7月下旬には普段掃除しない場所にたくさんのゴミが溜まるので、そのような場所を掃除するために水拭きボランティアを行った。これまでは先輩主導だったが、今後は自分で新しいボランティアを企画したいと考えている。

首都圏ブロック

東京都　文京区立第一中学校　一中祭ボランティア

地域学校協働本部、PTA、学校と共に企画を行い、7月31日に初めての「一中祭」を開催した。生徒会が提案した「地域をつなぐ架け橋に」というスローガンのもと、盆踊りやステージ発表、縁日ブースを用意し、自分たち生徒は主に縁日ボランティア活動と、ステージ発表に取り組んだ。SDGsが学べる縁日を作り、ステージでは「一中魂」という学校伝統の演舞を披露し、吹奏楽部の演奏やダンス部有志による発表を行った。

東京都　港区立青山中学校　図書委員会

昼休みの委員会活動時に折り紙でしおりを作り公共図書館に寄付している。この活動は、家で余っていた折り紙を使用し、2021年から活動経費ゼロでスタートした。環境への配慮と思いやりの心でしおりを作り、公共図書館で使ってもらうことで本の保護を目的としている。2022年は学校全体でSDGs活動に取り組んでおり、図書委員会では「12.つくる責任、つかう責任」のスローガンのもと、さらにこの活動に力を入れている。

千葉県　浦安市立高洲中学校　河合（かわい） 怜吾（れいご） さん

小学1年生から野球クラブチームに所属して野球を続けている。中学では全国大会で何度も優勝している強豪クラブチームに所属しており、野球人口が少なくなるなかで、野球の楽しさや素晴らしさをたくさんの子供たちに知ってもらい、より高い技術を身につけてもらいたいという願いから、兄と一緒に小学生に野球の指導をしてきた。現在は兄が高校に入り寮生活をしながら野球を続けているため、自分一人で野球指導に携わっている。

東海・北陸ブロック

岐阜県　大垣市立東中学校　東中ボランティアチーム

学校周りのゴミ拾いや落ち葉拾いを行っている。また、地域の祭りなどに参加して清掃活動にも取り組んでいる。きっかけは校長先生が校外掃除をしていると気づいたことで、最初は校長先生と2人で清掃活動を行っていたが、活動に共感・賛同してくれる人が仲間となり、今では13人で活動している。今後は校内や地域を四季折々の花でいっぱいにしたいと考え、来春にむけて葉ボタン、菜の花、キンセンカの準備をしている。

静岡県　学校法人日本体育大学　浜松日体中学校　金子（かねこ） 柚月（ゆずき） さん

文化祭で障がい者の方が作ったパンやシフォンケーキの販売を実施した。初めての文化祭で分からないことも多く大変だったが、先輩が丁寧に教えてくれて、仕入れたパンを全て売り切ることができた。クリスマスには障がい者施設への放課後デイサービスにて、ハンドベルの演奏やクイズの出題をして施設の子どもたちと楽しむことができ、大成功だった。他にも海岸清掃を行ったり、社会福祉講座やオンラインでウクライナ日赤勉強会を聞いたりした。

静岡県　浜松市立三方原中学校

「自ら行動」をモットーに、地域だけでなく、より多くの方々へ自分たちができることはないかと考えて活動している。例えば家庭で不用となった文房具、使用済みハガキ、切手、不用な布の回収を全校生徒へ呼びかけ、回収した文房具は静岡県ボランティア協会へ寄付した。また、回収した布から給食袋と雑巾を製作し、地域の福祉施設等へ配布をする活動を行った。また、校内美化活動や掲示物の作成、広報活動を行った。

三重県　玉城町立玉城中学校　生徒会

2017年に「続日本100名城（154番）」に選定された田丸城。町のシンボルであるこのお城の清掃活動は「田丸城跡クリーン作戦」と呼ばれ、年に2度行われている。毎回約600人の町民が参加してみんなでお城をきれいにしている。このクリーン作戦に合わせて、玉城中学校でも「TVS活動」と呼ばれる自分たちの中学校や周辺の史跡をきれいにしていこうという美化清掃活動に、全校生徒をあげて取り組んでいる。

三重県　津市立西橋内中学校　生徒会執行部

学校のSDGsの授業を通して「国や人の不平等をなくそう」というテーマについて学び、身近な課題として、「学校の制服の決まり」について考えた。インターネットなどを使ってジェンダーレス制服について学び、ジェンダーレス制服を導入している学校数などの資料を盛り込んだプレゼンテーションを実施。さらに先生や生徒、保護者の方々にアンケート調査を行ったり、生徒会で話し合ったりした結果、最終的に制服の変更を実現することができた。

関西ブロック

奈良県　育英西中学校　GTNN

視覚障がい者の実情を知るために、実際に視覚障がい者が学んでいる幼中高一貫の学校を訪問し、校長先生や視覚障がい者の方にお話を伺った。そして彼らの事故防止のためにストラップを作る取り組みを行うことにした。自分たちが作ったストラップをカバンなどに付けることで、一目で視覚障がい者の方だとわかり、彼らが困っていたら周囲の人が助けることができるというものだ。全国的にこの取り組みを知ってもらいたいと考えている。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　赤の橋

日本中の商店街が寂れていっていることを問題だと感じ、商店街にもっと子どもたちが気軽に来ることができる方法を考えた。そこで、地元にある石橋商店街の子ども向けの地図を掲載したパンフレットを作ることにした。地図には子どもたちがお遣いなどで行くようなお店や、ツバメの巣の場所など、彼らが興味を持ちそうな情報をたくさん掲載した。パンフレットは商店街に一週間置いていただき、多くの人に手に取っていただくことができた。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　いちごばたけ

幼稚園児を対象に、児童文化センターで人間すごろくとダンスを楽しんでもらうイベントを行った。人間すごろくでは、社会におけるマナーなどのクイズやコミュニケーションを深めることができるお題などを多く盛り込み、ダンスでは幼稚園児に人気がある曲を一緒に踊った。事前に3つの近隣の幼稚園にポスターを配ってイベントの告知を行い、活動後は人間すごろくで使ったクイズをオンライン動画で発信することで、自分たちの活動を広く発信した。

コミュニティ賞（中学生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※活動内容は応募時点のものです。
※順不同

関西ブロック

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　インターナショナルプロジェクト

「国際社会において、言語の隔たりによる不自由、不平等をなくす」ということをテーマに活動してきた。具体的には日本への留学生にアンケート調査を行い、そのデータをもとにパンフレットを作成して公共施設に設置したり、ウェブサイトを作成したりした。また、大学の生協にハラルフードを置かせていただく活動もあわせて行った。今後は一方的ではなく、相互的に対象者の方々とやりとりができるSNSや交流会を利用した活動をしてみたい。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　Welcome to Japan

日本に住む予定の外国人に、日本独自のルールやマナーを事前に知ってもらい、自国とのギャップを少しでも減らしてもらう取り組みを行っている。そのために日本に滞在経験のある外国人に、日本で困ったことについてのアンケートを行い、それらをもとに対策方法を検討して英語で書いたウェブサイトを作成した。今後はアンケート結果を参考にウェブサイトの修正をしたり、対象者である外国人がいる場所にポスター掲出するなど認知度の向上を目指したい。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　FMサポーターズ

自分たちは以前より「アレルギーのある人がない人と同じ料理を食べられるようにしたい」と強く思っていた。そこで、小麦・乳製品・卵のアレルゲンを抜いた献立を考えて提案し、給食の献立として提供してもらう取り組みを行っている。この活動の結果、自分たちの考えた献立が採用され、隣接する小学校の給食として提供されることが決まった。今後は別の時期の旬の食材を使った献立や、地域の郷土料理をアレンジした献立なども作ってみたいと思う。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　解決します!食に関する困りごと

「働く方々の夕食作りの負担を減らす」ことを目標に掲げ、夕方の時間帯に駅前の保育園が多い地域でお弁当を販売した。化学調味料不使用で栄養価の高いお弁当を販売している会社に協力していただき実施することができた。さらに保育園の協力で行ったアンケート結果をもとに、「食べ残しの多い野菜を使った食べやすいレシピ」を考案し、スーパーに置いてもらうことで子どもたちが野菜を食べるきっかけをつくる取り組みも行っている。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　介護用ロボットの普及へ

介護施設で働く方に「介護するときに大変なこと」や「あったら良いと思う介護用ロボット」についてお話を伺い、今ある介護用ロボットの改善案を検討。その介護用ロボットを造っている企業に電話で提案を行なった。また、介護用ロボットについて多くの人に知ってもらうためにポスターを制作して池田市役所に掲示した。今後は手すりに取り付けて歩く補助や起き上がる補助をするなど、新しい介護用ロボットの開発も考えていきたい。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　紙芝居プロジェクト

幼稚園に行って「園児に多様性についての紙芝居をみせる」という活動を行っている。事前に幼稚園に電話をしてニーズの確認をしてから訪問している。活動は中学3年生の同学年でグループを組んで実施している。この活動を始めたきっかけは、小さいうちからLGBTQや多様性について学んでおくことで、将来より生きやすい社会を実現できると思ったからだ。今後は誰もが着心地の良い制服を選べるようにすることにもトライしていきたい。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　給食応援隊

地域の小学生に給食の大切さを教える活動を行っている。具体的には小学生向けの動画を作り、これからも給食を長く食べ続ける小学1、2年生に見てもらうというものだ。動画は低学年の子どもたちが見やすいように、導入部に実際のアニメの動画を流してから具体的な内容を説明する構成にした。訪問した小学校の実際の給食メニューや食べ残しの量を具体的に説明し、動画を見る前と後でアンケートをとって意識変化の確認まで行った。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　子供たちに笑顔を

生まれた時から、もしくは幼少期に親と離れて生活せざるを得ない子どもがいるという、自分たちが知らない社会的な側面を知り、自分たちにも何か手助けできることはないかという思いから、実際に乳児院を訪問する活動を行なっている。訪問時には子供たちとただ遊ぶだけでなく、職員の方に時間をとってもらい普段は聞くことができないような乳児院についての詳しい内容や現状について質問したりアドバイスをもらい、SNSを通して広めている。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　ご飯で笑顔にプロジェクト〜in夢食堂〜

子ども食堂の情報を拡散する活動をしている。具体的には「夢食堂」という子ども食堂を運営している宝塚市内のコンビニ3店舗を訪問し、子ども食堂の利用の仕方を動画にまとめ、地元の小学校でその動画の説明とチラシの配布を行なったり、SNSで情報を発信している。このように子ども食堂の利用者の小学生やその保護者に、子ども食堂の認知度を高め、もっと気軽に利用していただける環境づくりを目指して活動をしている。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　殺処分ゼロプロジェクト

「犬猫の殺処分をゼロにする」というテーマで、大阪府豊能郡にある動物愛護施設のボランティアに参加し、掃除や餌の準備などのお手伝いをしている。また、学校での募金活動で集まったお金でペットフードを購入し、施設へ寄付する取り組みも行っている。今後もポスターやSNSを利用して、犬猫を飼うときに気をつけることや里親についてなど、殺処分される犬猫を減らすための広報活動を継続していきたい。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　CPグループ

「学ぶことの楽しさを知ってもらう」をテーマとし、小学生が普段行わないような実験を経験してもらうことで、学習に意欲を持ちにくい生徒でも意欲的に取り組めるようになることを目指して活動している。具体的には小学校低学年に対して、スライム作りやよく飛ぶ紙飛行機の製作を行った。この活動を通して、いつもは何かを受け取る側だった自分たちが教える側になることで、教える側の大変さや楽しさなどに気づくことができた。

関西ブロック

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　食品ロスを削減する会

自分たちの活動は主に2つある。1つ目は家庭で捨ててしまう食材を学校に集め、それらを地元のフードバンクに提供すること。この活動によって今捨てられてしまう食材を減らすことができる。2つ目はフードロスに関するポスターを作ってお店などに貼ってもらい、フードロスについて広く認知してもらうこと。この活動によって今後捨てられてしまう食材を減らすことができる。今後はフードバンクでのお手伝いなど、活動の範囲を広げていきたい。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　ずんどこどこ

子どもたちの自立と成長を支援するため、保育園を訪問して紙芝居の披露をしている。紙芝居の主題は友だち関係に設定し、登場人物を動物にすることで友だちとの関わり方について楽しく学べるようにした。内容は短く端的にし、どうすれば仲良く過ごせるか、園児自身が考えられるように作成した。レクリエーションは保育園に行く前に持ち物の準備をするという設定にし、準備物の絵が書かれたカードをカゴに入れるという内容で実施した。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　Save the Clothes

着られなくなった服や着ないで残っている服を、小学校や中学校で自分たちで作成した回収ボックスで回収し、児童養護施設に寄付する活動を行っている。また寄付しきれずに残ってしまった服は、チャリティーショップや法人団体などに寄付している。さらに自分たちの活動と、「着られなくなった服は捨てる以外にどのような使い道があるか」をまとめたWebサイトを制作して拡散したり、活動を学校の生徒の前で発表している。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　THGirlS

女性の生理に関する活動を行っている。具体的には校内の全ての女子トイレの個室に、生理用品を常備できるようにさまざまな立場の人との交渉や、小学校にも生理用品を置いてもらえるように働きかけるお手伝いなどをした。また小学生を対象に、生理用品の使い方や生理との付き合い方についての簡単な講演会も行った。現在これらの活動で得られた声などを活かして、生理用品の学校予算化を目指して先生方と話し合いを進めている。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　DSJ

主な活動の1つ目は、国立研究所の方にメールで外来種のことについてインタビューし、その内容について本校の生徒に2回の講義を行い、外来種についての知識を持ってもらう取り組みだ。2つ目は服部緑地公園をきれいにすること。そのためにゴミ箱の設置、ゴミの回収、公園のゴミ拾いを行った。その際、設置するゴミ箱を燃えるゴミと燃えないゴミを分別できるようにすることで、環境に優しくすることにも心がけて実施した。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　動物愛護を世の中に

自分たちの活動は主に3つある。1つ目は、動物用の玩具を動物愛護センターに寄付することだ。猫用の鈴入りボール、ロープ、知育玩具など20個程の玩具を手作りして寄付を行った。2つ目はサイトの作成だ。動物愛護センターに取材に行った際に質問したことなど、動物の殺処分の現状についてまとめたサイトを作成して発信した。3つ目はパンフレットの作成だ。このパンフレットでも動物の殺処分の現状についてまとめて情報発信した。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　なちゅなる

自分たちは過疎地域の活性化を目標とした取り組みを行っている。2年生の地理の授業で過疎化について学び、中学生の自分たちが地域の活性化に少しでも貢献したいという思いからこの活動をはじめた。具体的には与謝野町のケーキ屋さんに協力してもらい、お店のお菓子を学校で販売。その際に町の魅力が伝わるチラシも作成した。またお菓子の購入者に行ったアンケートを参考に、新たなニーズを掴んで次の活動に繋げたいと考えている。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　ネットから身を守る情報伝達室

インターネットにあふれる詐欺の被害をできるだけ減らすことを目的に活動している。ネット上に潜む詐欺など、さまざまな危険の回避方法や詐欺判別方法、対処方法を中心に、わかりやすく動画やポスターにしてSNSで投稿。また、「詐欺かどうかわからない」といったネット上の相談を、誰でも匿名・無料で行える窓口を複数のSNSに設置した。また絵を描くことが好きなので、ネットの安全に関する情報を漫画にして発信することも検討中だ。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　バスをより快適に過ごせるように

自分たちは、公共の交通機関である「バスの快適な利用」は、普段の生活をよりよくすることにつながると考えている。そこでバスに関する問題を改善するためにポスターを作成して、実際にバス会社さんに協力してもらい、掲示してもらうように依頼する取り組みを行っている。ポスターはできるだけ分かりやすい絵にすることで、さまざまな人が見て、より多くの人がバスなどの交通機関でのマナーを守る意識を高めてくれることを目指している。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　附中CP 団欒こども食堂

子ども食堂の現状を知り、自分たちに何かできないか考えた。そこで「団欒子ども食堂」に連絡して、毎月行われる子ども食堂のお手伝いをしている。食堂の準備や地域のゴミ拾いをしながらの広報などさまざまな活動を行った。この活動を行うなかで、人手不足や金銭的な課題を知った。そこで、近隣の店にボランティア募集のパンフレットを置いてもらったり、食品ロスをなくす活動をするグループに食材の寄付を行ったりした。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　You•Rishu project

農業における事故をテーマに、それらを減らすための活動を行っている。具体的にはJAに伺って、農家さんのお手伝いをしている営農生活部の方に農業事故に関する取材を行ったり、援農ボランティアへの参加や、実際に自らが農業を体験したりして農業事故に関する情報を収集。それをもとに農業事故の注意喚起ポスターを作り、JAの公式SNSで発信していただいた。現在、自分たちの活動の効果を知るためのアンケートも検討中だ。

コミュニティ賞（中学生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※活動内容は応募時点のものです。
※順不同

関西ブロック

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　Yuho&Karen

将来の夢を持つ子どもが少ないことを知り、新しいことを始めやすい幼稚園生を対象に、好きなことを見つけ、その見つけた好きなことを将来の夢に繋げるサポートをしたいと感じ、さまざまな種類の遊びを提供する取り組みを始めた。遊びの計画から実際に幼稚園に行って実施するまですべてを自分たちの力で行い、大きな模造紙にみんなで手形をつけて天の川を作ったり、モルックという競技を簡単にした遊びを実施したりした。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　幼稚園の先生方の力になりたい!

幼稚園の先生の人手不足が年々深刻になっているというニュースを見かけ、何か自分たちでできることはないかと考えて活動を始めた。メンバーの一人の出身幼稚園を訪問し、仕事のお手伝いをさせていただいた。このことで少しでも人手不足による負担を減らし、いつもよりもゆっくり園児たちと関わることができたり、休憩をゆっくり取ることができるのではないかと考えたからだ。今後は幼稚園の先生が増えるための活動も検討したい。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　Rainbow

自分たちのグループは「地産地消」という、地元の作物を地元で消費する地域活性化活動の啓発運動を行った。この地域で採れる魅力的な野菜について知り、それを子どもたちに伝えるという取り組みだ。具体的には「食を知ることは地域を知ることにつながる。」というコンセプトのもと、農家さんを訪ねて食材を知り、野菜のシルエットクイズを作り、野菜の味や食感、育ち方、旬の季節などを幼稚園の子どもたちと楽しく学ぶという活動を行った。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　レモネードスタンド委員会

レモネードスタンドという活動を行った。この活動はレモネードスタンド普及協会からレモン果汁を提供していただき、その他の準備物は自分たちで用意してレモネードの販売を行い、その収益金を全て小児がん医療支援に寄付するというものだ。今回は3年生の有志がレモネードスタンド委員として集まり、計画から販売まで全て生徒主体で行った。今後は隣接する小学校、高校でも販売を行ったり、地域の方が購入できるようにしていきたい。

大阪府　病気の子どもたちを笑顔に!

病院で入院している人たちに少しでも元気に、そして前向きで明るい気持ちになってもらうことを目標に、病棟に飾ってもらえる四季の装飾品作りに取り組んだ。きっかけは、学校で地域への奉仕活動を行う授業があり、同じ思いを持った生徒が集まり活動を始めた。活動は同じ学年の友だち2人と一緒に計3人で実施。以前から入院している人たちに関わりたいという思いがあり、中学生にもできることを探すためにこのテーマで活動を始めた。

京都府　亀岡市立亀岡中学校　学習探究部

コロナ禍でなかなか思うような活動ができずにいた。そんななか「地域の食材を使った料理を食べてほしい」という想いで運営されている「花まる子ども食堂」からお誘いがあり、自分たちにできるお手伝いを全力でさせていただいた。他にも地域のイベントでの募金活動やブースの運営を任せてもらったり、お誘いいただいた方への感謝の気持ちを忘れず、期待に応えられるように準備から実施まで最大限の努力をして取り組みを行っている。

京都府　同志社中学校　フィリピンお米プロジェクト

このプロジェクトは、フィリピンのミンダナオ島で約2年に1回勃発する紛争のために、山奥での生活を強いられている人に支援を行なう「ミンダナオ子供図書館」と連携した取り組みだ。具体的には山奥での暮らしによって食糧危機に陥っている人々を助けるために、水田を買うというプロジェクトである。自分たちはその中でもお金を集めるためのクラウドファンディングを実施し、寄付を集めるための動画や絵本を制作して広報する活動をしている。

京都府　南丹市立八木中学校　生徒会本部

生徒会本部として①あいさつ活動、②ウクライナ緊急募金、③ペットボトルキャップの回収、④使い捨てコンタクトレンズケースの回収、⑤福島ひまわり里親プロジェクトへの参加に取り組んでいる。いずれの活動も全校生徒に呼びかけ、その都度ボランティアを募集して活動への協力をしてもらっている。今後は地域の清掃をしたり、お祭りのお手伝いをしたりして、町を盛り上げられるような活動にも積極的に取り組んでいきたい。

中国・四国ブロック

岡山県　和気町立佐伯中学校　生徒会

生徒会役員が中心となって呼びかけを行い、部活動のない放課後を活用して地域とつながるための活動をしている。具体的には社会福祉協議会が月に1回、地域のご高齢者に向けて配付しているお弁当の「のし紙」にメッセージを書いたり、保育所や高齢者施設に下敷きやゴミ箱を作成して渡したりしている。地域の方とのつながりを感じることで、住んでいるこの地域のよさ（温かさ）を認識し、地域に貢献しようという校風を作ることが目標だ。

広島県　三原市立第一中学校

主に3つの活動を行っている。一つ目の「献血ボランティア」は、近隣のショッピングセンターに献血バスが来るのに合わせて、その店舗で献血の呼びかけを行ったり受付などの手伝いをしている。二つ目の「フラワーボランティア」は、花壇やプランターに花苗を植栽するとともに水やりなど花を管理する活動だ。三つ目の「旗揚げボランティア」は、学校の開校記念日に国旗・市旗・校旗を掲揚したり、始業前に掲揚して放課後降納するというものだ。

愛媛県　宇和島市立城北中学校　生徒会

毎週水曜日に朝ボランティア活動を行っている。校内外の清掃活動を行ったり、子ども食堂に参加したり、さまざまな活動に取り組んでいる。今年度は地域とのつながりを深めることを目標として、その第一歩としてSDGsファシリテーターの資格を持つ生徒が近隣の小学校に出向き、6年生に向けてSDGsの出前授業を行った。コロナ禍で活動を制限されることも多いが、積極的に地域の方々とボランティア活動に取り組んでいる。

中国・四国ブロック

愛媛県　東温市立重信中学校　T ーボラン

JCV（世界の子どもにワクチンを 日本委員会）を通して世界中の子どもたちにポリオワクチンを届けるためのエコキャップ回収活動や、福祉活動に役立ててもらうためのアルミ缶回収活動、赤い羽根や緑の募金活動、また新たにウクライナの子どもたちを支援するための募金を行った。また、東温市花いっぱい運動・校内花いっぱい活動、シトラスリボンプロジェクト、ロシア兵墓地・足立重信の墓碑清掃、ヘアドネーションなどにも積極的に取り組んでいる。

高知県　香美市立香北中学校　グリーンカーテンプロジェクト

地球温暖化の問題を調べたり、グリーンカーテン造りに取り組んでいる。学校にグリーンカーテンを造る説得材料にするため、実際にグリーンカーテンを造っている場所のデータを収集したり、有識者にインタビューなどを行った。現在はグリーンカーテン造りを始動し、その経過を写真撮影。学校のホームページなどを使って活動を発信したり、下級生にもその魅力を伝えて学校恒例のものとしてつなげていきたいと考えている。

高知県　香美市立香北中学校　国際交流チーム

台湾のシンプー中学校と「アートマイルプロジェクト」を通して、オンライン会議を使って交流を行っている。一回目の交流では電子ホワイトボードツールや動画で自己紹介を行った。二回目の交流では探究の活動について発表し、後日手紙を送り合った。今後も台湾の学校とオンラインで交流をしたいと考えており、例えばオンラインでの授業を開いたり、香北中学校を中心に他校にも参加を呼びかけることも検討している。

高知県　香美市立香北中学校　Plastics Reduce Project

総合学習でSDGsについて学んだ際に、プラスチックゴミが世界中で増えて問題になっていることを知って活動を開始した。まずプラスチックゴミがどれくらい落ちているのかを確かめるために、さまざまな場所で定期的なゴミ拾いを実施。非常に多くのプラスチックゴミが落ちていることがわかったので、地域の人や学校の生徒を対象にアンケートを実施し、その結果をもとにプラスチックゴミを削減するための絵本を作製しようと現在取り組んでいる。

九州ブロック

福岡県　新宮町立新宮中学校相島分校　相島少年消防クラブ

自分たちの活動の目的は、離島である相島を火事から守ることだ。「相島の安全は自分たちが守る」を合言葉に、週に4日の夜回り活動や軽可搬ポンプの操法訓練、火災予防ステッカーの全戸配布などを行っている。夜回り活動は島在住の4人で夜9時から約1時間実施し、「火の用心!」と声掛けをしながら居住区を回る活動だ。軽可搬ポンプ操法は、粕屋北部消防本部の方から指導を受けて正しく使えるように練習している。

佐賀県　佐賀市立三瀬中学校　生徒会

全校生徒で三瀬中学校前の道路に並び、通勤に車で通行する方々に向かって手を振り大きな声で挨拶をしている。実施の際はのぼりと横断幕を広げて、通勤の方々が笑顔になるように工夫している。三瀬は佐賀県と福岡県の県境で山道になっており、通勤の車などがスピードを出すために事故の危険が非常に高い地域だが、この挨拶運動をすることで、運転する方々は気持ちよく通行することができ、車の減速にもつながっている。

熊本県　熊本市立北部中学校　JRC部

自分たちはJRC部の活動で、切り絵、生け花、募金活動、老人ホームへの手紙作成、学校周辺のゴミ拾い、地域のボランティアサークルと一緒に老人ホームの窓ふきなどを行っている。コロナ禍で地域での活動が十分にできずに歯がゆい思いをすることもあったが、手紙や動画での交流を通して地域の方々とのつながりを継続している。今後はJRC部の存在や活動をもっと知ってもらい、一緒に活動する人を増やしていきたいと思っている。

熊本県　合志市立合志中学校　地域ボランティア委員会

さまざまな活動を行っている。花壇の花植えでは季節に応じて四季折々の花を植え、古紙回収では定期的に各クラスから古紙を回収。清掃活動では掃除の時間はもちろん、生徒会役員を中心に朝から校内の落ち葉清掃や地域の清掃活動にも参加している。また地域の乳児交流会に参加し、命の尊さや赤ちゃんボストについて学んでいる。募金活動にも取り組み、集めたお金はウクライナへ寄付。校門での挨拶運動も毎朝行っている。

熊本県　西原村立西原中学校　ボランティアクラブれんこん

常時の活動として、校内や学校周辺の清掃活動を行っている。また、地域の高齢者の方に暑中見舞いや年賀状を書いたり、仮設住宅や福祉施設に自分たちで作った小物や花の寄せ植えを届ける取り組みも行った。災害時には、生徒会と共同で支援物資の整理や募金活動を実施。冬休みには熊本市内のアーケード街の清掃活動も行った。コロナが落ち着けば、毎年行っている地域との交流や夏祭りの出店の手伝いなどを再開したい。

宮崎県　串間中学校インターアクト部

自分たちは2021年4月から有志で集まってボランティア活動を開始した。活動は週に2回で、先生方と相談して環境整備と福祉に関するボランティアを行っている。2021年9月以降は「植栽活動」や「校内や地域のゴミ拾い」、「海岸清掃」、「地域の方々との交流」を行った。通学路や観光地の周辺をきれいにして串間市の発展につなげるとともに、今後は地元の高校の先輩からアドバイスをもらって活動を継続していきたい。

宮崎県　国富町立八代中学校

ボランティア活動日を月2回設定し、自由参加で行っている。ボランティアの心を育てることを目標に、活動内容は参加生徒が自分で決めている。主に挨拶運動、校内や神社の清掃などだが、今年度から古着を回収してワクチンに換える活動も始めた。そして自分たちで手作りの桜の木を作り、実施したボランティアを花びらに書いてその木に貼ることで、活動の数が花びらの数になる。この桜の木をSDGsと関連づけて皆で桜を満開にすることを目指している。

コミュニティ賞（中学生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※活動内容は応募時点のものです。
※順不同

九州ブロック

宮崎県　三股町立三股中学校　Mボラ

Mボラという名称で、ボランティアスタッフを中心に校内外で継続的に活動している。校内においては、毎朝正門や西門での挨拶運動を実施。また、1969年に4名の命を奪った土砂崩れ事故から50年以上、毎年慰霊碑の清掃と生徒集会を実施し、命を大切にする教訓としている。その他にも校内緑化活動やウクライナ支援募金、幼稚園等への雑巾寄付、認知症サポート養成講座受講など、地域貢献に尽力している。

コミュニティ賞（高校生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※活動内容は応募時点のものです。
※順不同

北海道・東北ブロック

北海道　札幌市立開成中等教育学校　ボランティア局

「個人が企画を持ち寄り、皆で実現させる」という方針で活動している。これまでに①子供服の回収と寄付、②席ゆずりますマークの作成と普及、③ウクライナ支援など、さまざまな活動を行ってきた。①では地域に回収箱を設置し、集めた服は企業を通して難民に届け、②ではオリジナルのキーホルダーを作成、③では募金及びメッセージアートの作成を行った。4学年約70名の局員それぞれが主体性を持ち協働して活発に活動している。

北海道　北海道大野農業高等学校　ボランティア部

主な活動として、校内や地域の清掃活動を週3回行っている。また自然保護活動として、樹木の名前を調べて樹名板を作成して設置したり、大野川の植物調査や水質調査にも力を入れている。今年は5年に一度、北海道で開催されるフラワーソンという開花調査にも参加した。またクリスマスの時期に地域の一人暮らしのお年寄りの家を訪問し、シクラメンとカップケーキ、メッセージカードを届ける「サンタクロース活動」にも取り組んだ。

青森県　青森県立柏木農業高等学校　課題研究野菜班

地域農業の活性化を目標として、地元企業と連携してさまざまな野菜を栽培している。具体的には、在来野菜である清水森ナンバや津軽地域で産地化を目指しているカボチャ、本校がある平川市で栽培が増加してきているミニトマト等である。また、弘前市相馬地区で養殖が行われているオニテナガエビを活用した、アクアポニックスにも挑戦中である。これらの活動は学校公式ソーシャルメディアを活用しながら、情報発信も行っている。

宮城県　東陵高等学校　佐藤（さとう） 優香（ゆうか） さん

2年前から妹が中心となって海岸の流木拾いやゴミ拾いを行っている。集めた流木は、切って薪ストーブを使っている人やキャンプする人に届けたり、地域の避難所の非常用の燃料として保管してもらっている。昨年からは海岸や漁港をきれいにして、地域や観光客の人に喜んでもらいたいという思いから、週に1回のペースで漁港のゴミ拾いを始めた。また冬の時期には高齢者や小学生が雪道でケガをしないようにと雪かきも行っている。

山形県　山形県立置賜農業高等学校　おきのう食愛プロジェクト

子どもたちの欠食を防止するこども食堂を、宅配弁当や手作り焼き菓子の形で開催し、1年間で20回、提供した食事数は1,050食におよんでいる。また一般の方から食品の寄付を募り、これを配布するフードドライブやフードパントリーも月に4回実施。子どもたちの居場所づくりへの取り組みとして、野菜の栽培体験をする子ども農園を6回、手作り紙芝居や人形劇を通した食育活動を5回開催して、ひとり親世帯などの親子に感謝されている。

福島県　福島県立平工業高等学校　生徒会

主な活動は①アルミ缶回収による老人ホームへの車椅子寄贈、②老人ホーム慰問&吹奏楽部の演奏会企画、③アフリカ・マリ共和国へジャージや運動靴を贈る活動、④ペットボトルキャップ回収による世界の子どもたちにワクチンを贈る活動、⑤校内外の清掃・植栽&地域連携、⑥令和3年度温暖化防止にみんなで取り組む「福島議定書」事業、⑦感染症対策の衝立・木のぬくもりを感じ、想像力を高める子ども用おもちゃの作製などだ。

北関東・信越ブロック

群馬県　群馬県立大泉高等学校　植物バイオ研究部

群馬県館林市の「茂林寺沼湿原」の保全活動に取り組んでいる。この地域には、茂林寺沼、多々良沼、城沼などの沼があり、豊かな生態系が育まれ、これらは「里沼」と呼ばれて日本遺産にも指定されている。しかし、環境の変化や外来植物等の影響で貴重な湿原植物が姿を消しつつある。そこで自分たちは自然豊かな茂林寺沼湿原を後世に残すため、外来植物を除去するとともに、さらなる侵入を防ぐための調査を行っている。

群馬県　群馬県立館林高等学校　JRC部

人々が平等に暮らせることを願い、困窮している人やコロナ禍で苦しんでいる人に対して活動した。具体的には昼休みや文化祭を活用し、保護者の協力も得て、家で余っている食料を集めて「フードドライブ」を行い子ども食堂で配布した。また、移民の方が多く暮らす館林という土地柄から、ウクライナ支援募金を行った。さらに館林は「里沼」が日本遺産に認定されており、その一部である「館林紬」を広める地域文化継承活動も実施した。

栃木県　栃木県立学悠館高等学校　JRC部

防災講座として、避難所運営側に求められる決断や配慮等を学ぶ避難所運営ゲームの実施、「東日本大震災を風化させない！被災者の声」の朗読会や被災地ボランティア報告会を行った。また自分で手当てするセルフ赤十字救急法動画の作成や、マネキンヘッドを使用した講習など、対面を避けて学ぶ方法も検討。災害時非常食をレシピ本にまとめ、AED講習会・募金活動・河川清掃・防災情報を入れた観光マップの制作も行った。

北関東・信越ブロック

栃木県　栃木県立小山西高等学校　JRC部

保育所と老人ホームに毎月寄贈する大型カレンダーの制作、お年寄りとのWeb交流会開催、おもちゃ図書館の開催案内とおもちゃの貸し出し、地域の清掃活動などを行っている。また献血バスのボランティアや使い捨てカイロなどの資源回収も実施。老人ホームとおもちゃ図書館の活動は20年以上継続している取り組みだ。商店会イベントでユースラジオを開局し、案内や中継などの情報発信も行った。現在はSDGsカルタづくりを推進中だ。

栃木県　栃木県立矢板東高等学校　リベラルアーツ同好会チームあさぼらけ

昨年の夏から活動を開始したボランティア団体で、この1年間での活動内容は主に4つある。①地球おもいやりマルシェへのボランティア、②スポGOMI大会への参加、③校内初のフードバンク活動、④クリーン大作戦などだ。自分たちは「知って・伝えて・広げよう」をキャッチコピーとして、さまざまなボランティア活動への参加、企画・運営をしている団体であり、常に高校生ができる社会貢献活動の在り方を模索している。

長野県　長野県更級農業高等学校　JRC部

地域の困りごとを農業高校生という専門性を生かして解決することを目標としている。自分たちの住んでいる地域は、中山間部を中心に放置竹林の増加が課題となっている。そこで伐採した竹を原料にした土壌改良材や食器洗い洗剤、竹製の箸、農業用作業椅子作りに取り組んでいる。天然素材にこだわって持続的な竹の活用につなげ、人や環境に優しいものの提案、商品化を目指している。また伝統野菜の小森ナスの普及にも取り組み始めた。

茨城県　茗渓学園中学校高等学校　AquaBank

水問題の解決に貢献したいという気持ちから、直接支援をするのは難しいため間接的な支援を試み、水問題に取り組むNGO団体に寄付を行った。募金をただ集めたのではなく、「リサイクルアート」というアイデアを融合させ、生徒や教師から集めた不要な布やボトルキャップを、鍋敷きやコースターにリメイクし、学校の文化祭で販売。更にポスターを通して問題に対する意識を広め、取り組みで得た資金を寄付した。

首都圏ブロック

埼玉県　埼玉県立桶川西高等学校　科学部

理科室の一室に30数本の水槽を置き、約50種類800匹以上の魚類を中心にさまざまな生物を飼育・展示して、「ハートフル桶西水族館」として運営。一般公開しており、年間の来館者数は2,000人を超える。地域のイベントでは、魚を持参して展示する出前水族館や折り紙教室を開き、幅広い層の人に楽しんでもらっている。また桶川出身で日本初の女性農学博士である、辻村みちよ氏のオリジナル紙芝居を製作して披露している。

埼玉県　埼玉県立川口工業高等学校　掃除部

掃除部に所属しSDGsや環境問題を勉強している。水とプラスチック問題に着目し、ペットボトルゴミを減らすという目標から始めた。毎日ゴミ捨て場のペットボトルの本数を数え、1日平均250本捨てられていることが分かった。今後は工業高校で習った技術を生かしてGPSやAIを駆使したウォーターステーション（ウォーターサーバーとゴミステーションが併設されている施設）を、学校だけでなく市内のさまざまな場所に設置することを計画している。

東京都　大妻中野高等学校　香取（かとり） 杏（あん） さん

活動内容は2つあり、1つ目はデジボラ「高校生による高齢者向けスマホ教室」だ。アプリのダウンロードやコロナのワクチン予約の方法など、暮らしに役立つアプリを紹介し、各自の要望や困りごとに答えていくというものだ。2つ目は国際貢献するNPOに協力する活動で、カンボジアにある小学校での開発教育学習ツアーに同行して交流する取り組みだ。今年の冬に渡航を計画中で、現在未使用の文房具を集めたり外貨や円の募金を行っている。

東京都　学習院女子高等科　廣瀬（ひろせ） はる さん

福島の「魅力」と「今」を世界に発信し、日本各地や世界からの「メッセージ」を福島に届ける活動を行ってきた。全国から福島の写真を2,000枚以上集めて作成した「フォトモザイクアート」と、首都圏で作成した「福島へのメッセージの木」を、成田国際空港や福島空港、双葉郡富岡町学びの森などで展示した。また、福島の写真とメッセージによる「フォトブック」を作製し、国内外の大使館や国際交流施設など102か所に届けた。

東京都　吉祥女子高等学校　エルジェ　ティーンボランティアチーム

日本生活・語学支援機構の通称「エルジェ」は、海外から日本に来て生活する人たちのサポートを行うNPO法人だ。異なるバックグラウンドを持つ人々が、日本でより充実した時間を過ごすことができるような「よりどころ」を作っている。主な活動内容は生活サポート、日本語教室、イベントの開催で、自分たちはティーンボランティアチームを立ち上げ、これらの活動をたくさんの方に知ってもらえるよう、団体全体のサポートに取り組んでいる。

東京都　順天中学高等学校　社会福祉部

自分たち社会福祉部は、毎年児童館のわいわいフェスタに参加している。去年はコロナ禍での活動だったため、絵本の読み聞かせ動画作成しかできなかったが、今年は誰もが楽しめる物語を作り、「パネルシアター」を動画にした。動画を見た子ども食堂の運営者から依頼され、その子ども食堂では対面での実施ができた。実演後に保護者や運営者にご好評いただき、複数回にわたって実施を予定していたがコロナの影響で中止になり心残りである。

東京都　女子学院高等学校　山中（やまなか） 里佳子（りかこ） さん

環境に左右されない楽しい学びの場を提供するために、子どもたちの学習サポートを行っている。具体的には子どもたちが苦手な教科の勉強や学校の宿題などに一緒に取り組んでいる。また、単なる学習のサポートだけでなく、体験学習の提供や子どもたちの興味を尊重し、進路や将来のことを一緒に考えている。子どもたちが勉強をしたがらないときは悩みがあることが多いので、一緒に日常のことをゆっくり話すなど楽しく勉強できることを最優先にしている。

コミュニティ賞（高校生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※活動内容は応募時点のものです。
※順不同

首都圏ブロック

東京都　東京女学館高等学校　生徒会長、副会長

今年度、学校の生徒会長、副会長として主にウクライナの支援活動に取り組んできた。具体的には募金活動、現地の学校に送るためのミュージックビデオの撮影を行った。これらの活動を行うために一から企画提案書を作成し、教員会議、執行会議、各クラスの代表会議議員が集まる代表会議で承認を経て実行に移した。現在はウクライナを象徴するひまわりを描き、メッセージと共に姉妹校のナザレス校に送ることなどを計画中だ。

東京都　東京大学教育学部附属中等教育学校　村松（むらまつ） 奏哉（そうや） さん

社会福祉協議会の災害ボランティア講座を受講し、災害支援の現状やボランティアの役割、心構えなどを学び各グループで意見を交換し発表した。心のケアでは被災者の声を聴き共感する重要性を実感し、高齢者施設での傾聴ボランティア活動に活かされている。世代の異なる地域の方とつながる楽しさに魅力を感じ、図書館ボランティアや地域の美化活動にも参加。また16歳の誕生日に献血に足を運び、友人にも献血の情報を共有している。

東京都　広尾学園小石川高等学校　大須賀（おおすか） 弘希（ひろき） さん

自分が取り組んでいる活動は富士山に登り、下山しながらゴミ拾い活動をすることだ。一緒に登ってくれる人たちにルートなどの山の情報を教えてもらいながら、自分は自宅からトングと複数枚の袋を持参し、下山時にガラスや空き缶などの大きいゴミから飴の袋などの小さいゴミまで拾い集めるという活動だ。この取り組みの目的は、自分がゴミ拾いをしているのを見て、この活動を真似してくれたり、ポイ捨てをやめたりしてもらえるようにすることだ。

東京都　広尾学園高等学校　平松（ひらまつ） 彪悟（ひょうご） さん

海外の大学の講義を日本語で受講できる無料のオンライン講座を提供している団体を通して、約50人の高校生と共にイェール大学の講義を日本語に翻訳するボランティア活動を行っている。すべての学生が言語や経済的事情などから教育の機会を諦めるべきではないと考えており、この活動で「日本の学生がトップレベルの講義から学ぶ機会の提供」に貢献していると確信し、みんなと活動している。

千葉県　千葉県立八千代高等学校　図書委員会

自分たちは地域の高校や図書館、書店などと協力して、幅広い世代の方々を本の世界に誘い込むことを目指して活動している。具体的には図書だよりの発行や、「先生と生徒がおすすめする本」の冊子を作成。また図書館と協力して自分たちが推薦する本のPOPを作成したり、近隣の高校と協力して地域の方へ向けて、朗読に動きや音を加えた朗読劇を行ったりしている。このようにさまざまな形で本の魅力を伝える取り組みを行っている。

千葉県　千葉県立四街道高等学校　米澤（よねざわ） 優人（ゆうと） さん

未だ新型コロナウイルスが流行し、実際に人と会ってのボランティアの実施が難しいことから、非接触でできる活動を考案した。そして実践した活動は主に二つ。一つ目は本校がある四街道市内でコロナ禍によって生活困窮している人々を支援するために、市の社会福祉協議会と協力しフードバンクを始めたこと。二つ目はJR四街道駅と協力して、駅構内に季節感のある掲示物の展示や手作りのフードバンク呼びかけポスターの掲示を行ったことだ。

神奈川県　自修館中等教育学校　相田（あいだ） 七海（ななみ） さん

大学生が主に活動している神奈川学生献血推進連盟に、高校生として初めて加盟して活動している。具体的には、ショッピングモールや主要駅の駅前広場に停車している献血バスの前で、献血への協力を呼びかける広報活動を行っている。献血推進連盟での活動をしている中で、新型コロナウイルスの影響で献血者が減っている状況を知り、少しでも血液の安定供給ができるようにするにはどのようにしたらよいかと考え、学校献血を自ら企画して実現した。

神奈川県　社会福祉法人　川崎市社会福祉協議会　桐光学園女子高校生3人組

新型コロナウイルスの影響で生活が苦しくなってしまった女性（特にシングルマザー）を支援することを目的として活動している。川崎市社会福祉協議会、企業のプロボノ活動の全面的な支援のもと、食糧や生理用品などの日用品配布をはじめ、イベントでは参加者に社会とつながっている安心を感じてもらい、親子の思い出づくりにつながることを目指し、専門員による相談コーナーや親子の交流ができ、遊べるコーナーなどを設けて取り組んだ。

神奈川県　ジュニアリーダーズクラブ・オブ・あやせ

新型コロナウイルスの影響でなかなか活動ができず、また活動するメンバーも激減してしまった。そこで自分たちの活動を知ってもらい、活動者を増やすために「ジュニアリーダーとあそぼう」というイベントを定期的に開催している。3月には火おこし体験を実施し、子どもたちと火を起こすことの難しさを学んだ。今後もたくさんの人たちと交流ができるこの活動を知ってもらい、メンバーを増やすための取り組みを積極的に実施していきたい。

神奈川県　湘南白百合学園中学・高等学校　弓削（ゆげ） こころ さん

1ヶ月に1度のペースで地元の片瀬海岸のビーチクリーンを実施している。地域の人と協力して海の家でポイ捨て禁止のアナウンスをしたり、小学生への自由研究の見本として、「拾ったシーグラスを使ったコースター作り」を発信した。またオープンスクール時に実際のゴミの展示やシーグラスアートの展示、全校生徒へ向けたビーチクリーンイベントを開催した。他にもSDGsについてもっと知るための活動やイベントにも取り組んでいる。

神奈川県　洗足学園中学高等学校　祢宜（ねぎ） 帆奈（はんな） さん

中高生ボランティア団体「NEXUS」の代表を務めており、月に2回ほどビーチクリーン活動を行っている。主な拠点は由比ヶ浜、江ノ島海岸、逗子海岸、茅ヶ崎海岸、七里ヶ浜などで、美化財団の公式情報をもとにその都度海岸の状況を確認して活動場所を決めている。また月に1回、他の役員とともに活動の反省点や改善策を話し合い、より良い活動を行うための会議を開催。今後はSNSを活用してより多くの人々に情報発信をしていきたい。

首都圏ブロック

山梨県　駿台甲府高等学校　高校生ボランティア団体LINK

母子家庭の子どもが、貧困により十分な教育を受けられないために就学や就職で不利になることを防ぐため、子どもたちへ学びの場や交流の場を提供し、さまざまな方とのパートナーシップによる子どもたちの育ちの支援を行なっている。また山梨県でのウクライナ人の受け入れをサポートするため、支援する方々へウクライナの料理や習慣について調べた資料を渡す活動にも取り組んでいる。今後はSDGsについても意識して活動していきたい。

山梨県　山梨県立甲府第一高等学校　ガールスカウト第4団シニア・レンジャー

「世界中の女の子が＜女の子の日＞を安心して過ごせるように」をテーマに活動している。ケニアのブレインハウスアカデミーに通う同年代の女の子たちは、月に一度必ず来る＜女の子の日＞をとても不衛生な環境で過ごしているということを知り、仲間と共に清潔な生理用品購入のための資金作りの活動を始めた。地域のマルシェに参加し、古着や廃材を利用して「鯉のぼりキット」を製作・販売し、人とコミュニケーションを図りながら活動内容を広めている。

東海・北陸ブロック

福井県　福井県立高志高等学校　真木（まき） 美奏（みか） さん

自分の目標は、第一に闘病する子どもたちに支援の気持ちを伝えることで、少しでも明るい気持ちになってもらうことだ。さらには自分自身も同じように身体の不調で苦しんだ身として、回復して意欲的に活動する現在の様子を見せることで希望を与えたいと考えている。そこでそれぞれの子どもに合わせたキャラクター柄の布地の軽いお手玉を制作し、地域の病院の小児科で闘病する子どもたちへおもちゃとして寄付する活動に取り組んでいる。

福井県　福井県立福井商業高等学校　たたかう（?）JRC部

リニューアル後のデパートの「コロナ対策入り 触る地図」を利用した、「視覚障がい者の方とデパートを楽しむ会」を開催したり、スーパーのコロナ対策調査、防災講習会やAED講習会、踏切歩行などのバリアフリー調査などを行っている。また市の社会福祉協議会のホームページに、硬くて食べにくい防災用ビスケットを食べやすくするレシピを掲載してもらう活動や、海岸清掃や漂着ごみ調査結果からチラシやポスターなどを制作する活動も行っている。

岐阜県　岐阜県立大垣養老高等学校　木曽馬研究班

本校では地域の希少種である木曽馬を飼育している。この木曽馬を活用することで地域貢献できることはないかと考え、昨年度よりさまざまなことに取り組んでいる。現在最も力を入れていることは「障がい者乗馬の実践」だ。健常者ではない人を乗せるので、まずは落ち着いた馬を選ぶことと、障がいについての知識を身に付けること、そして的確な乗馬プログラムを考案することで有意義な乗馬体験が実施できるよう毎日考えながら活動している。

静岡県　静岡県立駿河総合高等学校　高山（たかやま） 結（ゆい） さん

自分が活動している「グローバルユース国連大使育成事業」は、若い世代が世界の文化や価値観に触れ、SDGs達成に向けての問題点を理解し、国際的な視野から今後の日本や国際社会にてリーダーシップを発揮する人材を育成し、国際協力の必要性を広めることを目的としている。自分は日本の大使に向けてSDGsについての調査・発表を行ったり、インドネシアの高校生に向けて日本とインドネシアのSDGsの問題点を発表したりした。

静岡県　静岡県立駿河総合高等学校　US

主な取り組みの1つ目は認知症カフェの運営だ。フェアトレードについての勉強会やフェアトレードチョコの試食会を行い、カカオ豆を剥いてもらう催しも入れることで認知症予防にも意識を向けるように工夫した。2つ目は防災フォーラムだ。昨年と今年の2回開催し、NPOと共同して運営することで企業や他校と共に防災意識を高めることができた。他にも6つの活動実績があり、企業と共同してさまざまなボランティアの運営に取り組んでいる。

愛知県　桜花学園高等学校　インターアクトクラブ

主な活動は福祉施設訪問と昭和区の鶴舞公園で行う花菖蒲プロジェクトへの参加だ。福祉施設ではミュージックベル演奏やマジック、バルーンアートを披露した。花菖蒲プロジェクトでは参加者へ菖蒲をプレゼンしたり、花菖蒲をモチーフにした工作を制作。またワールドフードふれあいフェスタでは、ミュージックベルやダンス、バルーンアートを披露した。レパートリーが多いと練習が大変だが、何度も訪問した施設でも毎回新鮮な気持ちで見てもらえる。

愛知県　中部大学春日丘高等学校　インターアクトクラブ　(代表:今井（いまい） 陽菜（はるな） さん)

全国最大のボランティア活動数を誇る本校インターアクトクラブの活動回数は、年間約250回。主にさまざまな福祉施設を訪問して交流や学習支援などを行っている。地域のイベントではフェアトレード商品などの販売、ダンスなどにも取り組んでいる。このように幅広い活動を行っているからこそできる企画も展開している。その1つが音楽を使って心の豊かさを育む「OSプロジェクト　ONESING ～目の前の人の一歩先へ、明日の不安の一歩先へ～」だ。

三重県　三重県立津商業高等学校　楽しい英語・中国語・日本語教室

月に1～4回、地元の公民館や図書館などで、主に子どもたちを対象に英語・中国語・日本語を教え、子どもたちにより多くの可能性を与えることを目指して活動している。ネイティブの先生とのオンラインレッスンも行っている。また夏休みや冬休みには、ポップコーンやお菓子、ジュースを用意して映画鑑賞会を行ったり、外国のお菓子作りをしたりして、食文化を通じて異文化理解へつながる活動にも積極的に取り組んでいる。

関西ブロック

滋賀県　滋賀県立八日市南高等学校　地域支援活動部

2012年度からの東北ボランティア活動で学んだことを地域社会に活かす活動として、「ボランティア畑での無農薬野菜栽培による子ども食堂や困っている方への支援」や、「知的障がい者施設での野菜苗の定植活動」、「募金活動」、「防災レンジャーによる園児への防災啓発活動」などに取り組んでいる。その他にも震災を風化させない活動として、「復興支援2畳凧の制作・飛揚」、「いいたて雪っ娘カボチャ栽培」なども行った。

コミュニティ賞（高校生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※活動内容は応募時点のものです。
※順不同

関西ブロック

奈良県　育英西高等学校　ななみ&さき

学校から近い介護老人保健施設等で「ヴァイオリンコンサート」を開催している。生徒会の友人と2人で「コロナ禍でも地域の皆さんと交流できないか」、「コロナでいろいろな制限が設けられている高齢者の方が、少しでも心豊かな時間を持てないか」と考えるなか、今回の活動を思いついた。2022年春から、自分たちから各施設にお願いの手紙や企画書を送り、快諾していただき実現した。夏までに3つの施設でコンサートを開催することができた。

奈良県　奈良県立商業高等学校　部局たまつえ　桜プロジェクト

「生理の貧困」と「防災対策」という異なる2つの社会課題の解決に取り組んでいる。東日本大震災で被災された方から「東日本大震災での課題は生理用品がなかったこと。また乾パンは飲み物がないと非常に食べづらかった」と聞いた。また、コロナ禍で生理の貧困がクローズアップされたこともあり、商業の授業での学びを生かして備蓄パンを開発して販売し、その売上収益の半分を生理用品の購入に充て、生理の貧困対策に取り組んでいる。

奈良県　奈良県立ろう学校　中高生企画

聴覚障がい者は補聴器や人工内耳をつけても音が聞き取りにくい。軽度の難聴者でも、例えば失った「サ」行の音や「ラ」行の音などは、補聴器で音を大きくしても聞き取りにくく、友達と会話しても合わせづらい。自分たちの企画は参加者同士が交流を深めることを目指し、「自分は一人ではない」と感じられる場所として、同じ境遇にあるろう者や難聴者の同級生や大学生が集まり、新たな一歩を踏み出す場を提供することを目的としている。

和歌山県　和歌山県立熊野高等学校　kumanoサポーターズリーダーボランティア班

平成23年台風12号による紀伊半島大水害では、死者56名、行方不明者5名という甚大な被害をもたらした。この災害の教訓を生かそうと活動を始めた。先輩たちがAEDシートを開発して町内の施設71カ所へ配布。自分たちはその活動を引継ぎ、近隣の田辺市の240カ所にAEDシートを配布した。またAED設置施設の情報をオープンデータ化するため、営業時間や細かい設置場所などの聞き取り調査も同時に行った。

和歌山県　和歌山県立和歌山盲学校　中高生徒会

自分たちの学校では、生徒会が中心となって子ども食堂に物品を寄贈する活動に取り組んでいる。合い言葉は「支援が必要な人に必要な分を提供する」だ。具体的には年2回、衣替えの季節に期間を決めて校内で古着を回収・換金し、子ども食堂が必要としている物品を購入している。物品寄贈の際、子どもたちやスタッフの方が笑顔で迎えてくれたり、喜んでくれたりすることで心が温まるとともに地域とのつながりの大切さを実感している。

大阪府　大阪教育大学附属高等学校池田校舎　ユネスコ部

日常生活で使う日本語を英語と韓国語でまとめた冊子と、池田市の公共施設の場所や施設の説明を記載した英語のリーフレットを作成した。また大阪国際交流センターを訪れ、日本に住む外国人と日本語で交流するボランティアに参加。そして職員やボランティアの方にお話を伺って作成物のフィードバックをいただき、それを基に改善した日本語集とリーフレットを、池田市の外国人支援の拠点であるダイバーシティーセンターに置いていただいた。

大阪府　大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校　インクルーシブなボランティア　勉強に困っている子どもたちを助け隊

クラスに四肢軟骨無形成症のため車椅子で学校生活を送るクラスメイトがいる。彼が快適に高校生活を送れるように、登下校のサポートなどを行った。また彼と「一緒に社会のために役立つことはできないか」を話し合ってボランティアサークルを創設。そこでインクルーシブ（誰でも参加可能）な活動として、感染症の影響等により勉強に困っている近隣の小学生を助ける活動を始めた。今後はもっとメンバーが増えるように情報発信していきたい。

大阪府　大阪府立堺工科高等学校　定時制の課程　コロナに負けるな！「復興支援プロジェクト」

自分たちは「堺学」（堺市の伝統地場産業を学ぶ）という授業で「包丁」と「線香」を作っている。東日本大震災による津波の被害により、家庭科で使用する「包丁」が流されて困っているというお話を聞いて以来、「包丁」と「線香」（鎮魂の願いを込めて）を寄贈する活動を継続している。さらにこれまでに寄贈した包丁を研ぎ直すための被災地訪問や、被災地の高校生とさまざまなコラボ事業に取り組むなどの支援活動を行っている。

大阪府　大阪府立堺工科高等学校　定時制の課程　地域活性化プロジェクト～コロナとともに～

コロナ禍で多くのイベントが中止になり元気を失っている地域を盛り上げるため、感染状況を踏まえて子どもたちがさまざまな職業を体験する教室などを実施した。それがテレビや新聞から取材され、自分たちの活動や地域の魅力を全国に発信することができた。感染状況に応じた対応ができるように、チラシではなくSNSを使った広報を行い、延期や中止になっても損失がでないように工夫し、食品などは常設店舗で販売できる仕組みも作った。

京都府　立命館宇治高等学校　西山（にしやま） 心音（ここね） さん

学校に通って部活をしながらでも困っている子どもたちに自分が何か力になれるようにと、さまざまな事情で充分に塾や学校に通えていない子どもたちに、週1～2回オンラインで勉強を教えている。また子ども食堂やサイエンススクールなど、自分が所属する団体が開催するイベントへのオフラインでのボランティアにも参加している。将来は中国など海外にも子ども食堂を広めたいと思っており、そのために英語に加えて中国語の勉強もしている。

兵庫県　芦屋学園高等学校　ボランティア部

SDGs17の目標の達成に向けてボランティア活動に取り組み、実践と啓発活動を行っている。「芦学校内SDGsプロジェクト」では、校内のあらゆる場所にポスターを掲示し、全校生徒や来校者にSDGsの認知と関心を深めてもらう活動をしている。また海岸や地域の清掃、フードバンクに食品を提供する活動、市民マラソンの給水、子ども食堂のボランティアなど、地域を中心に兵庫県内でも幅広くボランティア活動を実施している。

関西ブロック

兵庫県　甲南高等学校　ボランティア委員会

高齢者を対象に一対一でスマートフォンの使い方を伝授する「スマホ講座」や、熱中症を予防する「熱中症講座」などに取り組んだ。また小学生を対象とした防災講座や児童の放課後居場所づくりを行う「キッズスクエア」を手伝った。その他、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）を通じてウクライナへの人道支援募金活動やコロナ禍での医療従事者への募金活動などにも取り組んだ。特に自分たちは「異世代交流」を重視して活動している。

兵庫県　森垣（もりがき） 穂香（ほのか） さん

250団体3,000人以上の方が登録しているポータルサイト「LIBRARY」は、社会貢献活動が全国に広がるなか、人材不足や経済的理由などの問題によって理想とする活動が行えないことを問題視し、人や団体をつなぐこと、また団体ごとのニーズに合わせた資源や情報の提供を行っている。自分はこのサイトの立ち上げに携わり、さらに発展するきっかけ作りのための広報を担当。今後は団体同士の交流をはかれるイベント開催なども計画している。

中国・四国ブロック

岡山県　朝日塾中等教育学校　ボランティアチーム

少子高齢化と人口減少に苦しむ御津地域を活性化するために、獅子舞フェスタの運営をはじめ、さまざまなボランティア活動にチームで取り組んできた。ただ、一団体で取り組む限界とコロナ禍による地域コミュニティの喪失を感じたため、新たに近隣校を含めた地域の方々と共に「みつ元気プロジェクト」を立ち上げ、毎月戦略会議を開いて活性化に乗り出した。現在、新しく開設したオンライン動画で新規イベントや地域の日常を発信している。

岡山県　岡山県立矢掛高等学校　井原の魅力発掘委員会

ドラマで放送された「日本資本主義の父：渋沢栄一」の出世のスタート地点が私の地元、井原市だ。そこでゆかりの地を巡ったパンフレットを2021年の夏に作成した。渋沢栄一企画展や郵便局で配布、井原市の広報誌にも掲載され、地元のケーブルテレビや新聞にも取り上げられた。さまざまなコンテストや発表の場で井原市の広報に努めた他、今年度は地元の方々の協力をいただき、実際にゆかりの地を巡る観光ツアーの実施を企画中だ。

岡山県　金光学園中学・高等学校　田中（たなか） 希莉子（きりこ） さん

小学6年生の時に出会った「麦稈真田（麦わら帽子の材料）」の復興、普及に取り組んでいる。2021年は自然体験教室「旬の会」のリーダーとして、小学生を対象に麦まきや収穫体験を指導した。夏休みには公民館子ども教室で講座を実施。また中学2年生から作り始めた麦わら帽子を今年完成させ、麦の魅力を伝えている。今後は総社市のイベントに参加したり、母校の小学校での出前授業や生涯学習センターで講座を開催する予定だ。

島根県　出雲西高等学校　インターアクトクラブ

環境保全活動を中心に44年間継続して活動しており、海岸清掃を年間5回行っている。海岸には韓国から流れ着くゴミが多いことから、韓国の高校生と10年間国際交流してゴミの問題を訴えている。また海岸清掃を行うと川が汚れていることに気づき、海と川の原点が森ということを認識したのをきっかけに森の再生にも取り組んでいる。NPO法人の方たちと災害を起こさない森作りを目指して、植林や間伐、枝打ちなどを行っている。

島根県　島根県立三刀屋高等学校　JRC部

「梅でつながる魅力発信・交流プロジェクト」を立ち上げた。活動の場は部員の誰も知らなかった「神話の森 峯寺森林公園」だ。地元の方でさえ道に迷うため行く人は少なく若者は知らない場所だが、行ってみると珍しいものが満載で癒された。そこで放置されていた梅の木を活用して収穫体験や梅ジャム作りを行い、販売まで実施予定だ。また、来る人が迷わないための誘導看板や地図も間もなく竣工する。ワクワクするような交流の場を創り出したい。

島根県　島根県立情報科学高等学校　情報科学高校で遊ぼう学ぼう講座班

月に1回、日頃高校で学習しているICTの知識・技術を生かして、地域の小中学生を対象にICTの体験講座を行っている。ロボットやドローンを使ったプログラミング体験などを実施して参加者に楽しんでもらっている。講座の企画・運営・宣伝や「サポート生徒」の育成などは先生にアドバイスをいただきながら、実施運営は自分たち生徒自身で取り組んでいる。準備や実施は大変だが、参加者の喜んでくれる笑顔にやりがいを感じている。

広島県　盈進中学高等学校　ヒューマンライツ部

自分たちの部では主に4つの活動を展開している。①広島に生きる人として核廃絶を訴える、②ハンセン病問題から学ぶ、③被災者支援交流活動、④地域貢献活動だ。自分たちのテーマは「手と手から」で、実際に当事者の方と目を見て対話をし、手を握って体温を感じることを大切にしている。4つの活動に全ての部員が参加し、全ての活動に心を込めて取り組んでいる。活動を通して全ての人が平和に暮らせるようになることが目標だ。

広島県　崇徳学園崇徳中学・高等学校　インターアクト部

1万キロ離れたケニアのナイロビに住む小学生以下の子どもたちに、手作りの絵本を届ける国際ボランティアに取り組んでいる。絵本は文字の読めない主人公の女の子が、アルファベットのキャラクター『文字さん』に動物の名前を教えてもらって文字を学ぶというストーリーだ。現地に住む子どもたちに、文字の楽しさを知って豊かな人生を送ってもらえればと考えて活動している。現在は資金調達のためにクラウドファンディングの手続きを進めている。

山口県　山口県立厚狭高等学校　福井（ふくい） 優咲（ゆさき） さん

自分が住んでいる美祢市厚保は観光スポット秋吉台の西部に位置しているが、近頃は高齢化が進み、地域清掃の頻度が減ったことによりゴミのポイ捨てが気になるようになった。そこでゴミのポイ捨てを減らすために小学生と一緒に看板作りをしたり、家族と環境に優しい自然の竹を使ったゴミ箱を小学校に設置。また登下校中にゴミ拾いをすることで、美しい厚保の自然を守る活動に取り組んでいる。今後は放置竹林のリサイクルも学んで活動の幅を広げたい。

コミュニティ賞（高校生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※活動内容は応募時点のものです。
※順不同

中国・四国ブロック

山口県　山口県立厚狭高等学校　古門（ふるかど） 桜和（さわ） さん

コロナ禍でイベントが減り、地域の交流がゼロになりつつある。「そんな厚狭の街をもっと元気にしたい！もっと地域を活性化したい！」という思いから、学校で学んでいる食のことを活かして「厚狭っ子弁当」を開発し、地域の飲食店にお弁当作りをお願いして販売イベントを開催した。地域の活性化につなげるために小学生にもお弁当の開発や販売に携わってもらうことで保護者の活動への関わりも深まり、さらに地元のお店も巻き込んだイベントが実現できた。

愛媛県　愛媛県立小松高等学校　Team KOMATSU

自分たちがボランティア活動をしている古民家の「住吉屋森家」は、かつて経済的に愛媛の中心となった所で、約180年経過した今も奇跡的に残っている建物である。毎月第2土曜日（8・10月は第1土曜日）の見学会や研修会、2月から4月の雛飾りイベントに毎月5回参加して、邸内に種まきしたコキアを畑に移植したり、12月にはコキアを箒にする活動に取り組んだり、また集客のイベントにも積極的に参加して地域に貢献をしている。

愛媛県　愛媛県立松山南高等学校　山下（やました） 聖星（せいら） さん

自分は普段から刺繍入りの筆箱やポーチ、カーテンなど、身の回りの小物を手作りして愛用している。そこで手作りおもちゃを作り、保育園にプレゼントするボランティアを始めた。作るおもちゃの選択時には母から意見を聞いて参考にしたり、試作品をお子さんがいらっしゃる学校の先生方に見ていただいてアドバイスをもらったりして作っている。完成したおもちゃを保育園にプレゼントして、写真で間接的に子どもたちが遊んでいるのを見ると嬉しく思う。

徳島県　徳島県立池田高等学校定時制課程　池定・地域まもり隊

地域住民の皆様と連携した清掃活動、警察署と連携した夜間防犯パトロール、地域の防犯や防災に活用していただくうちわやロウソクの作成と配布、地域でのエコ活動に活用するうちわやエコバッグの制作と配布、地域で実施している廃食用油リサイクル活動への支援、エシカル（倫理的）消費や消費者問題に関する学習と活動など、「誰かのために何かをしたい」「できることからコツコツと」を活動の理念に社会貢献活動を行っている。

徳島県　緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム

自分たち高校生有志によるボランティア活動は、堤防などの刈草を堆肥にする取り組み、緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトとして、「循環型社会を目指した高校生から社会を変える環境社会イノベーション」をテーマに展開している。現在は地域や家庭での環境学習の教材としての活用や、絶滅危惧種の保護活動、東日本大震災の復興支援、東京五輪会場周辺での木陰づくり、緑のカーテンなど幅広く環境問題の改善に取り組んでいる。

九州ブロック

福岡県　いいづか人材育成グループ『ユリシス』

「地域貢献」、「異世代間交流」、「国際交流」を活動テーマに、さまざまなことに参加・協力・挑戦している。活動の中で出会う方々との交流を通じて、「自ら学び、感じ、成長していくこと」をモットーにしている。具体的には来日して間もない外国人への支援と国際交流を目的とした日本語教室の開催。異世代間交流を目的とした各種事業への協力や、成人式の運営支援。民間財団等の助成事業を活用した事業実施などを行っている。

福岡県　戸畑高校家庭クラブ

フードロス問題について知り、フードロス削減のために学校でできることを探すためにフードパントリーと子ども食堂の現場に行って運営の補助に取り組んだ。フードパントリーの現場では、配布されるお米や野菜の仕分けや来た人にフードパントリーの案内をする活動を行った。子ども食堂では運営の手伝いだけでなく、その場に来ている子どもたちがお互いに交流し合えるよう手助けするなど、子どもたちとの交流もたくさん行うことができた。

佐賀県　佐賀県立唐津南高等学校　虹ノ松原プロジェクトチーム

19年間にわたって地域の宝、『虹ノ松原』の保全活動に取り組んでおり、多くの人たちに美しい唐津の宝を守る心、松原の情報発信と伝統を未来へつなぐ重要性を伝え、地域になくてはならない存在に成長することができた。次の活動として①松原の有効資源を活用した商品開発、②松原を通じた教育・啓発活動、③産業化へ向けた取り組みを目的とし、モノづくり・ヒトづくり・産業づくりを軸とした新しい地域循環プロジェクトに取り組んでいる。

佐賀県　佐賀県立致遠館高等学校　ボランティア部

校内では花壇の花植え、学校周辺の除草作業、文化祭での活動紹介の展示等に取り組んでいる。毎月、前月の活動の振り返りや次月の計画を部員同士で話し合っている。JRC活動では、校内で募金活動や献血の呼びかけなどを行っている。またネパールの高校生と文通をするという世界に目を向けた活動や、熱中症対策や災害への対策にも取り組んだ。地域の活動では佐賀市の緑化を進める取り組みや、県警主催の防犯広報活動にも参加した。

長崎県　長崎県立佐世保特別支援学校高等部上五島分教室

生徒全員で学校周辺や通学路の荒地の雑草や石を取り、鍬で耕して整地した花壇に、種から育てた約2,000本の花を植えて地域を美しくする活動に取り組んだ。知的障がいのために他の人にやってもらうことも多かったが、ふるさとのために少しでも自分が役立てることを知り、自信を高めることができた。11月から2月までの時期には花がなくなってしまうので、現在はその時期に咲く花を調べて1年中花が咲いている町にしたいと考えている。

長崎県　長崎県立島原農業高等学校　食品加工部

南島原産のレモンと乳製品の加工の際に廃棄されるホエーを用いて、レモンタルトを製造し、企業と連携して「レモッタ」という新商品を開発した。この取り組みは、廃棄されるホエーを用いたSDGsに配慮したものである。また、島原市には「和ろうそく」の文化があり、自分たちは伝統文化の継承とSDGsの目標達成のため、食品加工の際に利用されないレモンの皮を使って和ろうそくを作る研究活動も行っている。

九州ブロック

長崎県　長崎県立対馬高等学校　ユネスコスクール部

対馬市役所等と連携し、国内希少野生動植物種に指定された「ツシマウラボシシジミ」という対馬固有亜種のチョウの保護に取り組んでいる。校内で幼虫のエサとなる「ヌスビトハギ」等を育て、保護区へ植栽を行った。また、農業高校と連携して野生では絶滅したと言われている「オウゴンオニユリ」の栽培や、地元企業と連携して「海ゴミ問題」の解決に向けて取り組んでいる。5月には自分たちで企画、運営を行って海岸清掃を実施した。

熊本県　熊本県立南稜高等学校　ボランティア部

部員一人一人の活動としては、「一人一企画」をモットーとして、災害ボランティア活動、書き損じハガキなどの収集活動、花壇の花苗植えなど、各人で活動を企画してチラシ掲示により全校生徒に参加や協力を呼び掛けながら活動に取り組んでいる。ボランティア部全体の活動としては、普段から救急法と幼児安全法を学び、地域の方々への研修会で救急法を伝えたり、救急法体験ブースを設置して来場者の方々に救急法を伝えたりしている。

熊本県　熊本県立ひのくに高等支援学校

「地域花いっぱい&クリーン大作戦」という取り組みを6月と11月の年2回、全校生徒で行っている。この活動は自分たちで育てた花苗をプランターに植えて地域の市役所や病院等に配付する「地域花いっぱい」活動と、地域の道路を清掃する「クリーン大作戦」の2つの班に分かれ取り組んでいる。園芸科では学校出口にある国道沿いの植栽帯に花を植える、除草するなどの管理を行っている。地域の方々から感謝されることが励みになっている。

熊本県　熊本県立湧心館高等学校　ボランティア部

コロナ禍で人と接する機会が少なくなったお年寄りの方々に七夕飾りを贈ろうという企画を立て、各学年の廊下にポスターと短冊やペン、折り紙を置いて昼休みには参加を呼び掛けるために各教室を巡回。メッセージが書かれた短冊を飾り付けた七夕飾りを老健施設に贈った。短冊には私たち高校生の夢や願いも書いたので、「とても楽しく読ませてもらってうれしかった」というお礼の言葉をいただき、同じ笹にお年寄りの方々も願いを書いて飾られたと伺った。

鹿児島県　鹿児島市ジュニアリーダークラブコアラ

鹿児島市内の子ども会が参加する研修会や親子向けイベントでの運営補助、募金活動などのボランティアを月2回のペースで行い、毎月開かれる定例会では役員が考えた企画を基に小学生から高校生団員の親睦を深める取り組みを行っている。年度末に実施する「コアラ宿泊研修」は、場所の予約やタイムスケジュールの作成など、運営の全てを役員で行い、今までのボランティアや定例会のための準備期間などの全ての活動の集大成となる。

沖縄県　沖縄県立中部農林高等学校定時制　ボランティア部

ボランティア活動を通して地域貢献をすることを目的に、泡瀬干潟のクリーン活動や社会福祉協議会への寄付活動など、日常生活で気が付いた自分たちでできそうな取り組みを提案して企画・実施している。その他にも公民館、児童館、公園やゴミ捨て場といった公共施設のクリーン活動、博物館や動物園のイベントの手伝い、小学校の出前授業、農家の手伝いも行った。コロナが落ち着いたら他校のボランティア部と協力して横のつながりも深めたい。

沖縄県　沖縄県立普天間高等学校　ボランティア部

プラスチックのリサイクルに協力するためコンタクトレンズケースの回収を行い、26kgの回収ができた。また青少年赤十字協議会による街頭募金を行ったり、文化祭の展示では「ミャンマーの現状」をテーマに、現地の避難民の医療費や食糧費に充てるための募金を呼び掛けたりした。また毎週県内各地で行われるビーチクリーンに参加して、沖縄の海の更なる環境美化に協力した。今後は自分たちでもビーチクリーンを主催してみたい。

沖縄県　N高等学校　内山（うちやま） 和香（わか） さん

高校1年生の秋から約1年間、もっとみんなに貧困問題に目を向けてもらうことを目的に、「おにぎりの会」というホームレス支援の団体でホームレスの方に物資の提供などをする活動を行っている。夜9時から約2時間、福岡市にある大濠公園で生活困窮のために野宿生活を余儀なくされているホームレスの方々に、夏期は月に2回、冬期は週に1回、希望される物資や食料を提供したり体調などをお聞きして彼らを支援する活動だ。

審査員からのメッセージ

子どもたちは、大人に比べて知識と経験が少ない分、自分が直に見聞きしたこと、体験したことに対してはまっすぐに向き合い、精いっぱい頭を使ったり心を砕きます。そして、もっと何かできないか、こんなことも必要ではないか、と思いを巡らせ工夫をしている様を今回のVスピの事例の中でも多く見せていただきました。

また、それを応援してくれる周囲の大人の存在も見逃せません。子どもは、自分のことを親身に考えてくれたり応援してくれる人がいると、頑張る力が出て、自分も人のために力を出そうという気持ちも育つそうです。さらに、中・高校生が周囲の大人や企業にも積極的に応援を求めに行っていることも嬉しい驚きです。これは、大人への信頼感があるからだと思います。そして、大人の持つ固定観念をやすやすと超えて課題解決のために動いており、頼もしさを感じます。今後は、病気や障がい、貧困など支援される側の人と固定的に考えがちな人とも一緒に、支援する側・される側の垣根を超えて、誰もが支え合う関係性に育てていってほしいと期待しています。

公益社団法人 日本フィランソロピー協会　理事長
髙橋 陽子

2020年1月にコロナの感染が国内で確認されて以来、現在に至るまで、我が国は長くコロナ禍にあります。今春卒業していく中学生、高校生は、休校措置、その後の分散登校、オンライン授業を経験するなど、感染症拡大防止のための学校教育の大きな変化の波に、最も長くさらされた世代です。

ボランティア活動シーンでも、人との直接の触れ合いの自粛を強いられ、学校の伝統となっていたボランティア活動の縮小、あるいは一時休止の選択を余儀なくされたケースも少なくありません。こうした困難を抱えながら、なお、地域や世界の課題に目を向け、その解決にチャレンジする、Vスピに集った中・高校生の姿勢にまず敬意を表します。

また、インターネットなどを駆使することによって学びの場を提供し、学力や経済の格差を楽々と克服していく〝デジタルネイティブ〟たちの活躍には目を見張るものがあります。

これまで同様、地域での地道な活動を大切にしつつ、これまで誰も考えもしなかったボランティア活動を創造し、新たな地平を切り拓いていくことを一層期待します。

元日本教育新聞社取締役編集局長
公益財団法人理想教育財団理事
矢吹 正徳

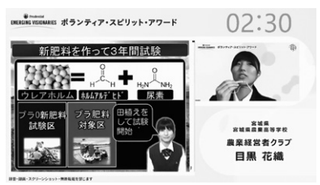
今年も素晴らしい活動を拝見することができ、心から感動しました。また、この活動を陰ながら支えていただいている主催者の皆様にもあらためて感謝と御礼を申し上げます。

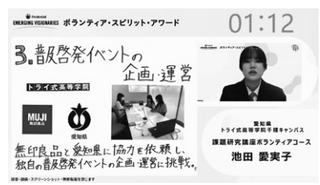
さて、今年度の活動で感じたキーワードが二つあります。それは「継続性」と「新たな視点」です。発表の中にも一度だけの活動に留まらず、続けていくことを大切にして取り組んでいる例が数多く見られ、大きな成果をあげていました。また、身近なところから世界まで様々な分野に関心を広げ、これまでにない新たな視点で取り組んでいた例もありました。このキーワードが今年度の活動の根幹にあることを感じました。

中・高校生の感性は、無限大であり、その感性を伸ばしていくことがこの活動の原点でもあるように思っています。この活動に終わりはありません。全国の中・高校生が感性を磨くためにもこの活動に積極的に参加されることを期待しております。

皆さんのボランティア活動、本当にありがとうございます。

公益社団法人 ジュニア・アチーブメント日本　代表理事
佐川 秀雄





皆さんの信念は必ずボランティアをする相手に伝わっています

第23回米国ボランティア親善大使

難波（なんば） 沙和（さわ）さん

第26回ボランティア・スピリット・アワード受賞者の皆さん、初めまして。ご紹介にあずかりました第23回米国ボランティア親善大使の難波沙和です。皆さん、この度は受賞本当におめでとうございます。今年も去年と同様に、オンライン形式での全国表彰式となりましたが、今この場で皆さんにお目にかかれていることを、とても嬉しく思っております。

本日は、いつも一生懸命ボランティアを頑張ってくださっている皆さんに、私から感謝の気持ちとメッセージをお伝えさせていただければと思います。どうぞリラックスしながら聞いてください。よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスのパンデミックから約3年が経った2022年。少しずつ行動範囲が広がり社会に活気が戻ってきたものの、まだ、その影響が残る1年でしたね。

皆さんにとって2022年はどんな年になったでしょうか。きっと、感染対策をしながら、どう地域と関わっていけばいいのか悩まれた方も多いのではないでしょうか。新しい生活様式の中で、ボランティア活動を続けるのは、大変なこともたくさんあったと思います。

そこで私が皆さんにお伝えしたいことは、ただ一つです。

皆さん、いつもボランティア本当にありがとう。

感染状況が度々変わり、対応が難しい状況下でも、ボランティアを続けてくださっていることに心からの尊敬を込めて、感謝申し上げます。

皆さんは今年、どのような信念を持ってボランティア活動を行われていましたか。

この数年間、なかなか思うように活動ができなかったり、助けたい人、交流したい人に気軽に会うことが難しかったりした方もいらっしゃるのではないでしょうか。しかし、ようやく活気が戻ってきた2022年は、皆さんの活動範囲の幅も広がり、改めてボランティア活動の楽しさや、人との繋がりの大切さに気づけた1年になったのではないかと思います。

受賞者の皆さんの活動内容を拝見すると、コロナ禍だからこその想いや、課題解決に向け沢山の工夫を凝らして活動されている姿勢がみえました。ここにいる皆さんは、それぞれ信念を持って、誰かのためにボランティア活動をしてきましたね。必ず「誰かのためになりたい」という想いは伝わっています。皆さんの活動で、救われている人が必ずいます。この事を忘れず、皆さんが今後も信念を持ちながら活動に邁進されることを願っております。

ここで一つ、私自身が信念を大切に想うきっかけになったエピソードをお伝えします。

中高生の頃、私は地元で国際交流イベントを開催するために学生団体を立ち上げ、複数のボランティア活動を行っていましたが、今回は「日本語練習会」についてお話しさせていただきます。

私は、中学3年生の時に、地域コミュニティで外国人に日本語を教える活動を行う「日本語練習会」でボランティアを始めました。小学生の頃から、国際交流が大好きだった私は、すぐに日本語ボランティアの虜になりました。自分が人の役に立てることへの喜びや異文化が混じり合う空間への好奇心が、私のボランティアへのやる気を加熱させたのです。

ボランティアを始めたきっかけは、国際交流が好きという気持ちでしたが、活動を続けていくにつれ、「学習者のより豊かな暮らしのために役に立ちたい」という気持ちの方が大きくなっていったのを覚えています。

私が日本語を教えていたのは、主に宮崎の専門学校に通うベトナム人の方々でした。彼らにとって、日本語は非常に複雑で難解です。文法や発音の仕方もベトナム語とは違います。しかし、日本語ができないと専門学校での勉強やアルバイトに支障が出てしまいます。そのため、私のボランティアでの役割は責任重大です。プレッシャーを感じながら、日本語検定2級や3級の本を買って、どうすればより分かりやすく日本語を教えることができるのか試行錯誤しながら、学習者皆さんのために工夫して教えました。

もちろん、私はプロの日本語教師ではないため、度々、質問に答えられず自分の無力さを感じることもありましたが、「沙和先生との時間が楽しい。」と学習者皆さんがくれる言葉を励みに、ボランティア日の前日に、準備として教科書の予習をしていたのは良い思い出です。

私のボランティア活動は、ただ日本語を教えるだけではありませんでした。私が担当する学習者の大半は、専門学校とバイトに追われており、「日本語練習会」は彼らにとって唯一の憩いの場となっていました。そのため、少しでも彼らにとって居心地が良く過ごせるように、コミュニケーションの取り方に気をつけ、彼ら一人一人に対して気遣いの心を持つように心がけていました。また、不定期開催ではありましたが、ボランティアと学習者の交流会も企画したりしていました。

ボランティア活動を通して、学んだことや得たものは数えきれませんが、特に強く想うのは、信念を持つことの大切さです。皆さんも経験されていると思いますが、ボランティアって楽しいことばかりではないですよね。活動への強い想いがないと続けることは容易ではなかったと思います。しかし、私は、「学習者皆さんの宮崎での暮らしを少しでも豊かにする。」という信念を持ち続けていました。そうすることで、彼らともとても良い関係性を築くことができましたし、モチベーション高くボランティアの準備を行うことができていたのです。

今、思い返すと、学習者皆さんからもらう「ありがとう」の言葉と自身の信念があったからこそ、活動を続けて来られたのだと思います。

皆さんが行っている活動は、どれもとても素敵な活動です。是非、これからも自信を持って、他者への思いやりや優しさといった信念を忘れずに進んでいってくださいね。皆さんの想いは必ずボランティアをする相手に伝わっています。大変なことも辛いこともあるかもしれませんが、そのことをどうか忘れないでください。

そしてもう一つ。私から皆さんにお伝えしたいことがあります。それは、皆さんにはこの全国表彰式を通して、素晴らしい仲間ができたということです。一人一人の住む場所や活動内容はちがえど、「誰かのためになりたい」という想いで日々ボランティア活動に励まれているという点では同じはずです。

実際に私も3年前、皆さんと同じように全国表彰式に参加させていただきましたが、そこで出会った仲間達は私にとってかけがえのない宝物になっています。活動で大変なことがあっても、全国各地で頑張る仲間に相談することで救われたこともありました。

Vスピを通して、皆さんが集まることが出来たのは素晴らしいことだと思います。どうぞ一つ一つの出会いを大切に、素敵な時間を過ごしてくださいね。また皆さんの仲間は、海外にも沢山います。日本中、そして世界中に、世界を本気でよりよく変えようとしている素晴らしい仲間がいるということは、大きな力になると私は確信しています。是非Vスピから優しさの輪を広げていきましょう。

最後になりましたが、皆さんがこの場で出会った新たな仲間と共にさらに活動に励まれ、世界をよりよく変えていくことを私は心の底から支え、応援しています。

改めて皆さん、いつもボランティア、ありがとう。

難波 沙和さんの受賞対象となったボランティア活動

スペイン留学とベトナム滞在の経験を活かし、国内の活動では、外国人のための日本語練習会に参加した。また、学生団体WCTを設立して代表を務め、中高生・外国人が対象の国際交流イベントを市内で定期的に開催し、写真コンテストやお花見などの楽しいワークショップを実施した。さらに、海外の活動では、ネイティブティーチャーとして、日本語を勉強している学生の会話練習を指導した。活動を通して周囲が変化したことは、日本語練習会に参加する10代が増えたことと、中高生の国際交流への関心度が高まったことだと実感している。

アメリカの受賞者紹介

Financial Solutions for a Changing World

「経済的な解決策」部門

Ella Gupta
（17歳、ノースカロライナ州）

若い女性1万人余を対象に無料コンテンツの金融教育を提供し、ジェンダー間の経済的不平等解消を目指す。

Isaac Hertenstein
（16歳、インディアナ州）

自身の住む地域の極端な貧富の差を目にして、「Students Teaching Finance」という金融教育を実施。

Rachel Holmes
（19歳、カリフォルニア州）

黒人の女子高生が成功するために必要なスキルと自信を育む、キャリア開発とネットワーキングプログラムを実施。

Sahana Mantha
（15歳、ノースカロライナ州）

9つの州でホームレス経験のある2500人以上のシングルマザーと子どもを対象に経済的自立を実現する取り組み。

Faaris Zuberi
（17歳、メリーランド州）

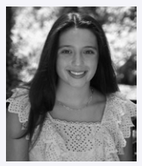
Youth Economic Initiativeを組織し、学生にローン・税金・投資等金融知識を提供、社会に備える支援を実施。

Societal Solutions for a Changing World

「社会的な解決策」部門

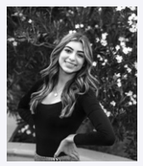
Jonah Basi
（17歳、フロリダ州）

水をろ過し、生物の生息地を提供するマングローブを植林し、南フロリダの水路を復元する団体を設立して環境保全。



Amelie Beck
（16歳、ケンタッキー州）

高齢者の健康促進のため、テクノロジーにアクセスしやすくして、トレーニングやサポートを提供する団体を共同設立。



Jordyn Cambeiro
（16歳、ネヴァダ州）

スペイン語系学生が英語力を伸ばすため、言語学習ツールにアクセスできる活動をしている。

Esther Chan
（16歳、ハワイ州）

高齢者がサイバー犯罪から身を守るため、オンライン詐欺の見分け方やパスワード作成などの教育活動を実施。

Kayli Joy Cooper
（17歳、カリフォルニア州）

家出やホームレスの状況の10代の少女が心身の健康や自立を維持できるツールやキットを提供する活動を実施。

Sayers Grooms
（16歳、フロリダ州）

自分自身の経験を活かし、バランス障害のある人々が「フレーム ランニング」にアクセスできる非営利団体を設立。

Isabella Hanson
（16歳、ペンシルベニア州）

BLM運動に触発され、創造的な表現を通じて社会正義と平等を主張するプラットフォームを若者に提供。

Aaron Li
（17歳、オレゴン州）

アジア系アメリカ人および太平洋諸島系住民コミュニティのメンタルヘルス改善・世代間ギャップを解消する団体を創設。

Chris Matthews
（14歳、ジョージア州）

家族を亡くした自身の経験から、困難な状況に直面している子供たちに無料の毛布を提供する社会的企業を創設。

Arun Moorthy
（17歳、アリゾナ州）

健康チェック、予防医学に簡単にアクセスでき、健康増進、不平等解消を目的としたモバイル・ヘルスケアアプリを作成。

Naomi Porter
（17歳、カリフォルニア州）

次世代起業家にスキルとスタートアップ資金を提供する事業を創設、多言語ワークショップ、資金調達の機会等を提供。

Tavish Sharma
（18歳、イリノイ州）

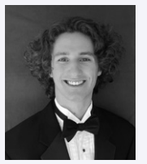
より多くの人々と食料庫や炊き出しをつなぐ無料のモバイルアプリを作成し、85,000人以上にサービスを提供。

Anya Shukla
（19歳、ワシントン州）

「有色人種の十代の若者たちが有色人種の十代のために」という活動で人種的平等を改善し、アーティストをサポート。

Sriya Tallapragada
（15歳、ニュージャージー州）

科学・技術・工学・芸術・数学の分野でジェンダーギャップを埋め、若い女性がこれらを追求できるような活動を実施。



Jonathan Tamen
（17歳、フロリダ州）

コロナ禍でフェイスシールド制作した経験を活かし、障がいのあるハイチの子ども達に対して3Dプリント製の義肢を提供。

Khloe Thompson
（15歳、カリフォルニア州）

従来の生理用品に代わる、環境にも体にも優しい再利用可能な天然素材のパッドを開発し、利用者から意見収集。

Arnav Tripathi
（18歳、ジョージア州）

無料のWebサイトを通じて個人がGED（高卒資格）取得をサポートする組織を設立し、家庭教師などを実施。

Arthur Wang
（17歳、メリーランド州）

コロナ禍での教師への感謝を込め、カラフルなデザインとアクセサリー付きの無料の手作りマスクを教師と職員に提供。

Stephanie Wang
（18歳、テキサス州）

病気の発生メカニズムなどを解説した本やカリキュラムの制作など、公衆衛生教育への関心を高める活動を実施。

Elise Zeigler
（17歳、ミズーリ州）

女性の移民や難民などに対して、スクリーンプリントなどをデザイン・製造する機会を提供して、経済的な機会を提供。

第26回ボランティア・スピリット・アワード応募状況

第26回Vスピにご応募いただいた全員のボランティア活動について集計いたしました。

	個人応募	グループ応募	応募総合計
活動人数	71人	11,670人	11,741人
応募件数	71件	284件	355件

1 中学生・高校生の別（件）

中学生	147
高校生	208

2 ボランティアの形態（件）

個人	26
学校内のグループ	268
他校とのグループ	11
外部団体	23
その他	27
無回答	0

3 都道府県別活動人数

北海道・東北ブロック

個人		6件
グループ		20件
合計		1,143人
北海道	222人	7件
青森県	297人	4件
秋田県	18人	2件
岩手県	508人	2件
宮城県	41人	6件
山形県	38人	1件
福島県	19人	4件

東海・北陸ブロック

個人		10件
グループ		29件
合計		1,143人
富山県	195人	3件
石川県	16人	2件
福井県	50人	4件
岐阜県	106人	7件
静岡県	139人	12件
愛知県	185人	8件
三重県	452人	3件

中国・四国ブロック

個人		9件
グループ		36件
合計		2,181人
岡山県	1,239人	11件
島根県	74人	3件
鳥取県	0人	0件
広島県	108人	7件
山口県	32人	4件
香川県	1人	1件
愛媛県	245人	6件
徳島県	104人	4件
高知県	378人	9件

北関東・信越ブロック

個人		5件
グループ		25件
合計		1,323人
群馬県	173人	9件
栃木県	888人	9件
新潟県	58人	2件
長野県	25人	1件
茨城県	179人	9件

関西ブロック

個人		6件
グループ		80件
合計		1,054人
滋賀県	17人	2件
奈良県	33人	5件
和歌山県	49人	2件
大阪府	232人	56件
京都府	504人	12件
兵庫県	219人	9件

九州ブロック

個人		13件
グループ		41件
合計		3,895人
福岡県	320人	6件
佐賀県	114人	3件
長崎県	509人	8件
大分県	37人	2件
熊本県	238人	12件
宮崎県	1,948人	7件
鹿児島県	630人	4件
沖縄県	99人	12件

首都圏ブロック

個人		22件
グループ		53件
合計		1,002人
埼玉県	201人	8件
東京都	434人	29件
千葉県	123人	5件
神奈川県	211人	29件
山梨県	33人	4件

今年の応募内容の特徴

今年も新型コロナウイルスの影響があったにも関わらず、非常に充実した活動内容が多数寄せられました。

とくにコロナ禍で被害を受けられた人たち、社会的・経済的に弱者となる人たち、動物などをサポート・保護し、コロナ禍で人との交流が制限されている中、いかに活動を広げるかという工夫や発想が見られました。一方で、ポストコロナで人との交流を復活させようという努力も見られました。また、自治体や企業、全国の仲間と連携するなど、中高生とは思えないほどに素晴らしい実行力を発揮されていた例や、SDGs（エスディージーズ）を意識して、持続可能な社会を目指し、様々な社会課題解決に取り組まれている例も多く見られました。また、SNSの活用やクラウドファンディング、アプリの開発など、デジタルを駆使しながら共感の輪を広げている点も中高生らしいと感じられました。

第26回ボランティア・スピリット・アワード応募校一覧

※順不同

北海道・東北ブロック

都道府県名	学校名	応募数 グループ	応募数 個人
北海道	札幌市立栄南中学校	1	
	札幌市立開成中等教育学校	1	
	札幌市立宮の森中学校	1	
	星槎国際高等学校 芦別学習センター	1	
	北海道札幌工業高等学校 土木科	1	
	北海道大野農業高等学校	1	
	北星学園余市高等学校	1	
青森県	青森県五所川原市立 五所川原第三中学校	1	
	青森県立五所川原 農林高等学校	1	
	青森県立柏木農業高等学校	1	
	青森市立東中学校		1
秋田県	秋田県立大曲農業高等学校	1	
	大仙市立大曲中学校		1
岩手県	奥州市立衣川中学校	1	
宮城県	気仙沼市立松岩中学校		1
	気仙沼市立津谷中学校	1	
	宮城県農業高等学校	2	
	東陵高等学校		1
山形県	山形県立置賜農業高等学校	1	
福島県	会津北嶺高等学校		1
	福島県立福島工業高等学校 定時制	1	
	福島県立平工業高等学校	1	
	福島大学附属中学校		1
中学校		9	
高等学校		15	
その他／学校名なし		2	

北関東・信越ブロック

都道府県名	学校名	応募数 グループ	応募数 個人
群馬県	伊勢崎市立第三中学校	1	
	群馬県立館林高等学校	1	
	群馬県立館林女子高等学校	1	
	群馬県立太田女子高等学校	1	
	群馬県立大泉高等学校	1	
	東京農業大学第二高等学校	1	2
	白根開善学校中等部・高等部	1	
栃木県	宇都宮市立宮の原中学校	1	
	栃木県立宇都宮中央高等学校	1	
	栃木県立学悠館高等学校	1	1
	栃木県立小山西高等学校	1	
	栃木県立真岡女子高等学校	1	
	栃木県立矢板東高等学校	1	
	栃木市立皆川中学校		1
新潟県	十日町市立吉田中学校	1	
	新潟市立万代高等学校	1	
長野県	長野県更級農業高等学校	1	
茨城県	茨城県立土浦第二高等学校	1	
	霞ヶ浦高等学校		1
	江戸川学園取手高等学校	1	
	水城高等学校	1	
	八千代町立八千代第一中学校	1	
	茗渓学園中学校高等学校	2	
中学校		6	
高等学校		21	
その他／学校名なし		3	

首都圏ブロック

都道府県名	学校名	応募数 グループ	応募数 個人
埼玉県	さいたま市立植竹中学校	1	
	細田学園中学校		1
	埼玉県立桶川西高等学校	1	
	埼玉県立川口工業高等学校	1	
	三郷市立前川中学校	1	
	上尾市立東中学校	1	
	草加市立栄中学校		1
東京都	サレジアン国際学園 中学校高等学校		1
	学習院女子高等科		1
	吉祥女子高等学校	1	
	慶應義塾女子高等学校		1
	広尾学園高等学校		1
	広尾学園小石川高等学校		1
	港区立青山中学校	1	
	渋谷教育学園渋谷高等学校	1	
	淑徳巣鴨高等学校	1	
	順天中学高等学校	1	
	女子学院高等学校		1
	世田谷区立三宿中学校		1
	世田谷区立緑丘中学校	3	
	専修大学附属高等学校	1	
	大妻中野高等学校		1
	調布市立第五中学校	1	
	東京女学館高等学校	1	1
	東京大学教育学部附属 中等教育学校		1
	東京都市大学等々力高等学校		1
	東京都市大学 等々力中学校高等学校	1	
	東京都立五日市高等学校	1	
	東京都立第四商業高等学校	1	
	藤村女子中学・高等学校	1	
	文京区立第一中学校	1	

第26回ボランティア・スピリット・アワード応募校一覧

※順不同

東海・北陸ブロック

都道府県名	学校名	応募数 グループ	応募数 個人
富山県	富山県立上市高等学校	1	
	富山県立伏木高等学校	1	
	富山市立八尾中学校	1	
石川県	かほく市立高松中学校	1	
	能美市立辰口中学校	1	
福井県	福井県立高志高等学校		1
	福井県立若狭高等学校	1	
福井県	福井県立大野高等学校	1	
	福井県立福井商業高等学校	1	
岐阜県	羽島市立中央中学校	1	
	下呂市立下呂中学校	1	
	岐阜県立大垣養老高等学校	1	
	岐阜市立精華中学校		1
	高山市立北稜中学校	1	
	大垣市・安八郡安八町組合立東安中学校	1	
	大垣市立東中学校	1	
静岡県	学校法人日本体育大学浜松日体高等学校		1
	学校法人日本体育大学浜松日体中学校		4
	静岡県立駿河総合高等学校	1	1
	静岡県立藤枝特別支援学校中学部	1	
	藤枝市立岡部中学校	1	
	日本大学三島高等学校	1	
	浜松市立三方原中学校	1	
愛知県	トライ式高等学院千種キャンパス	1	
	蟹江町立蟹江中学校		1
	菊華高等学校	1	
	桜花学園高等学校	1	
	中部大学春日丘高等学校	2	
	名古屋市立守山西中学校	1	
	名古屋市立新郊中学校		1
三重県	玉城町立玉城中学校	1	
	三重県立津商業高等学校	1	
	津市立西橋内中学校	1	
中学校			21
高等学校			17
その他／学校名なし			1

関西ブロック

都道府県名	学校名	応募数 グループ	応募数 個人
滋賀県	滋賀県立八日市南高等学校	1	
	大津市立葛川小・中学校	1	
奈良県	育英西高等学校	1	
	育英西中学校	1	
	広陵町立真美ヶ丘中学校	1	
	奈良県立ろう学校	1	
	奈良県立商業高等学校	1	
和歌山県	和歌山県立熊野高等学校	1	
	和歌山県立和歌山盲学校	1	
大阪府	四天王寺高等学校	1	
	大阪教育大学附属高等学校池田校舎	1	1
	大阪教育大学附属池田中学校	41	
	大阪市立新巽中学校	1	
	大阪府立みどり清朋高等学校	1	
	大阪府立堺工科高等学校定時制の課程	4	
	大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校	1	
	大阪府立天王寺高等学校		1
	大阪府立東住吉高等学校	1	
	大阪府立北摂つばさ高等学校	1	
京都府	亀岡市立育親中学校	1	
	亀岡市立亀岡中学校	1	
	京丹後市立久美浜中学校	1	
	京都市立八条中学校		1
	京都府立綾部高等学校	1	
	京都府立京都八幡高等学校南キャンパス	1	
	聖カタリナ高等学校		1
	同志社中学校	1	
	南丹市立園部中学校	1	
	南丹市立八木中学校	1	
	立命館宇治高等学校		1
兵庫県	芦屋学園高等学校	1	
兵庫県	賢明女子学院中学校・高等学校	1	
	甲南高等学校	1	
	相生学院高等学校明石校	1	
	兵庫県立武庫荘総合高等学校	1	
	兵庫県立豊岡総合高等学校	1	
中学校			52
高等学校			28
その他／学校名なし			6

中国・四国ブロック

都道府県名	学校名	応募数 グループ	応募数 個人
岡山県	岡山県立岡山操山高等学校	1	
	岡山県立倉敷青稜高等学校	1	
	岡山県立矢掛高等学校	1	
	金光学園中学・高等学校		1
	山陽学園高等学校	1	
	新見市立哲西中学校	1	
	倉敷市立西中学校	1	
	朝日塾中等教育学校	1	
	和気町立佐伯中学校	1	
島根県	出雲西高等学校	1	
	島根県立三刀屋高等学校	1	
	島根県立情報科学高等学校	1	
広島県	盈進中学高等学校	1	
	英数学館高等学校		1
	広島県立広島叡智学園高等学校		1
	広島県立松永高等学校		1
	三原市立第一中学校	1	
	崇徳学園崇徳中学・高等学校	1	
	福山市立培遠中学校	1	
山口県	山口県立宇部商業高等学校	1	
	山口県立厚狭高等学校		2
山口県	山口県立柳井商工高等学校	1	
香川県	香川県立観音寺第一高等学校		1
愛媛県	愛媛県立小松高等学校	1	
	愛媛県立松山南高等学校		1
	愛媛県立丹原高等学校	1	
	宇和島市立城南中学校	1	
	宇和島市立城北中学校	1	
	東温市立重信中学校	1	
徳島県	徳島県立池田高等学校定時制課程	1	
	徳島県立徳島商業高等学校	1	
	徳島県立脇町高等学校	1	
高知県	香美市立香北中学校	6	1
	香美市立大栃中学校	1	
	高知市立横浜中学校	1	
中学校			17
高等学校			25
その他／学校名なし			3

九州ブロック

都道府県名	学校名	応募数 グループ	応募数 個人
福岡県	古賀市立古賀中学校	1	
	新宮町立新宮中学校相島分校	1	
	八女市立矢部清流学園	1	
	福岡県立武蔵台高等学校		1
佐賀県	佐賀県立致遠館高等学校	1	
	佐賀県立唐津南高等学校	1	
	佐賀市立三瀬中学校	1	
長崎県	雲仙市立吾妻中学校	1	
	長崎県立佐世保特別支援学校高等部上五島分教室	1	
	長崎県立川棚特別支援学校	1	
	長崎県立対馬高等学校	1	
	長崎県立島原農業高等学校	1	
長崎県	長崎県立諫早農業高等学校	1	
	長崎日本大学高等学校	1	1
大分県	岩田学園岩田中学校・高等学校	1	
	別府溝部学園高等学校	1	
熊本県	芦北町立佐敷中学校	1	
	熊本学園大学付属高等学校		2
	熊本県立ひのくに高等支援学校	1	
	熊本県立菊池農業高等学校	1	
	熊本県立南稜高等学校	2	1
	熊本県立湧心館高等学校	1	
	熊本市立北部中学校	1	
	合志市立合志中学校	1	
	西原村立西原中学校	1	
宮崎県	宮崎県立日南高等学校	1	
	宮崎市立生目台中学校	1	
	国富町立八代中学校	1	
	三股町立三股中学校	1	
	都城市立妻ケ丘中学校	1	
	都城市立西中学校	1	
鹿児島県	鹿児島市立桜丘中学校	1	
	大崎町立大崎中学校	1	
	与論町立与論中学校	1	
沖縄県	N高等学校		1
	沖縄県立球陽高等学校	1	
	沖縄県立首里高等学校	1	
	沖縄県立中部農林高等学校定時制	1	7
	沖縄県立普天間高等学校	1	
中学校			18
高等学校			32
その他／学校名なし			4

〈締切日〉
2023年
8/31(木)

あなたのボランティア活動を聞かせて下さい!

Prudential
EMERGING VISIONARIES

第27回
(2023年)

「ボランティア・スピリット・アワード」はボランティア活動に取り組む中学生・高校生の皆さんを応援する国際的なプログラムです。

応募者全員に、記念品をプレゼント！

応募期間

2023年6月1日(木) ～ 2023年8月31日(木)

応募資格

・ボランティア活動に取り組んでいる中学生・高校生（2023年8月31日時点で在学中の方） ※特別支援学校や、中高一貫校等は、それぞれ対応する部門にご応募ください。ご不明な点やご質問は、事務局までお問合せください。
・過去の応募・受賞歴に関係なく、何度でも応募可能です。
・個人の活動、グループでの活動、どちらも対象となります。
・2022年9月以降に取り組んだ（取り組んでいる）活動が対象です。

応募方法

公式ホームページよりご応募ください。
ボランティア活動について、具体的な体験や感想をご入力ください。
※具体的な入力項目と応募方法は、公式ホームページの応募概要ページに記載します。

活動期間　活動内容　活動のきっかけ　苦労したこと・工夫したこと　学んだこと

◀ホームページはこちら

審査項目

●自主性　●創造性　●気づき・チャレンジ　●社会貢献度・影響度　●学び・成長
●困難の克服　などを総合的に審査します。

各賞について

文部科学大臣賞	中学生部門・高校生部門　各1組 活動支援金10万円、表彰状、クリスタルトロフィー
米国ボランティア親善大使	代表2名を選出 2024年5月に全米表彰式（予定）へ派遣、表彰状
全国賞	ブロック賞受賞者より8組（上限） 活動支援金10万円、表彰状、クリスタルトロフィー
ブロック賞	全国より30組（上限） 活動支援金5万円、表彰状
コミュニティ賞	全国より150組（上限） 活動支援金2万円、表彰状

「Prudential Spirit of Community ボランティア・スピリット・アワード（SOC）」は、2022年4月から
「Prudential Emerging Visionaries ボランティア・スピリット・アワード　～未来を描くチカラ～」に名称変更しました。

お問合せ先

ボランティア・スピリット・アワード 事務局
〒112-8790 東京都文京区小石川4-14-12 共同印刷（株）内
ホームページ：**www.vspirit.jp**　TEL：03-5501-5364　Eメール：info@vspirit-info.jp

ボランティア・スピリット・アワード　検索
携帯サイトはこちらから→